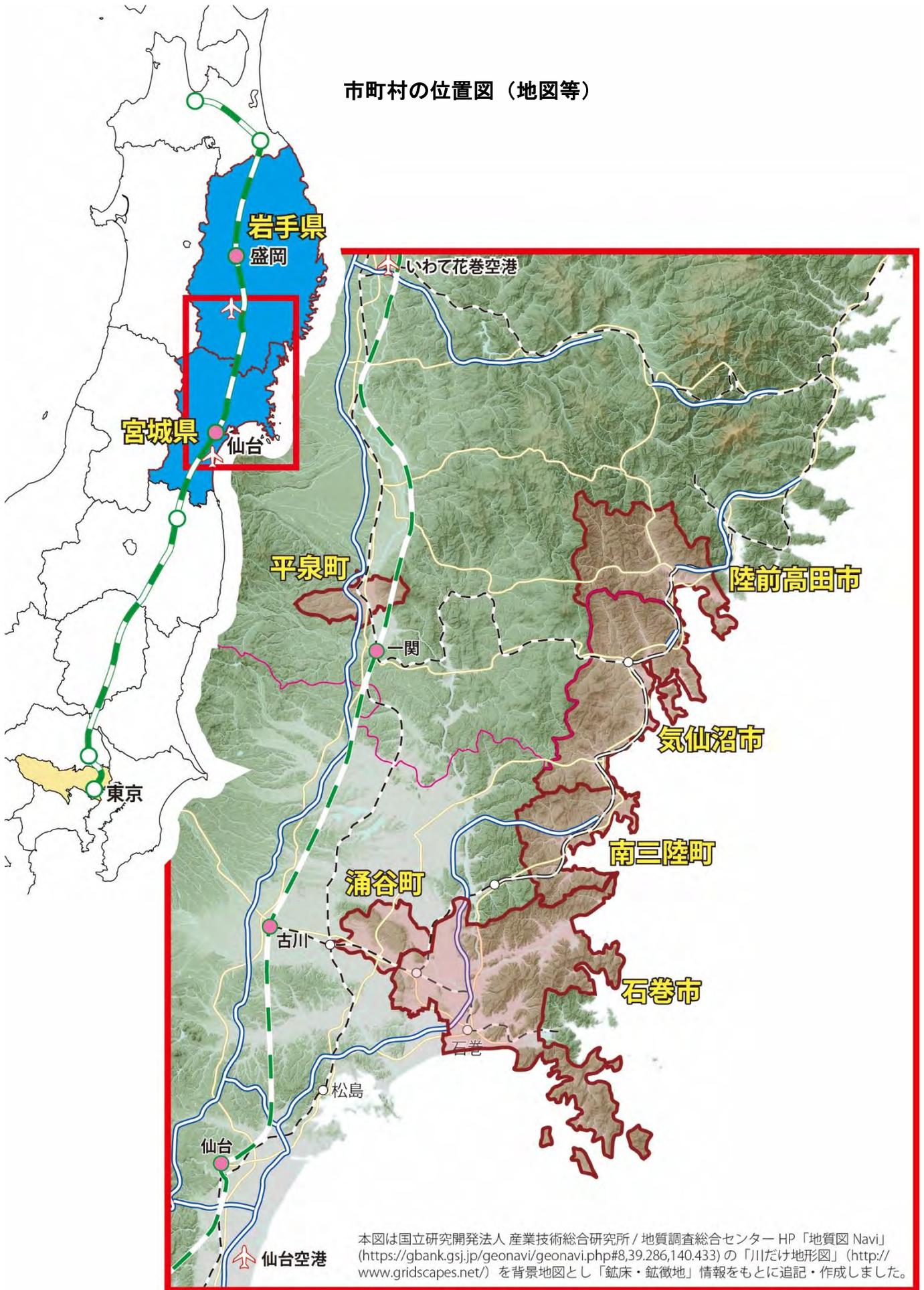


① 申請者	岩手県(平泉町・陸前高田市) ◎宮城県(気仙沼市・南三陸町・ ◎涌谷町・石巻市)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	みちのくごーるどろまん -おうごんのくにじぱんぐ、さんきんはじまりのちをたどる-		
<h1>みちのく GOLD 浪漫</h1> <p>-黄金の国ジパング、産金はじめりの地をたどる-</p>			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>日本で初めて“金”が産出されたのは奈良時代の陸奥国。現在の岩手県や宮城県を含み「みちのく」とも呼ばれるこの地が生んだ“金”は富の象徴のみならず、奈良・東大寺の大仏や平泉・中尊寺金色堂を彩り、祈りの対象として人々の心に光を灯し続けてきました。</p> <p>私たちは、時代とともに幾重にも結び付き、独自の文化や信仰、産業へと昇華した“金”と人々の縁を“みちのく GOLD”と名付け、価値や魅力の掘り起しを始めました。日々の生活や風土に溶け込んだ“みちのく GOLD”との出会いは、悠久の時を経ても色褪せることのない浪漫に満ち溢れています。</p>			
			

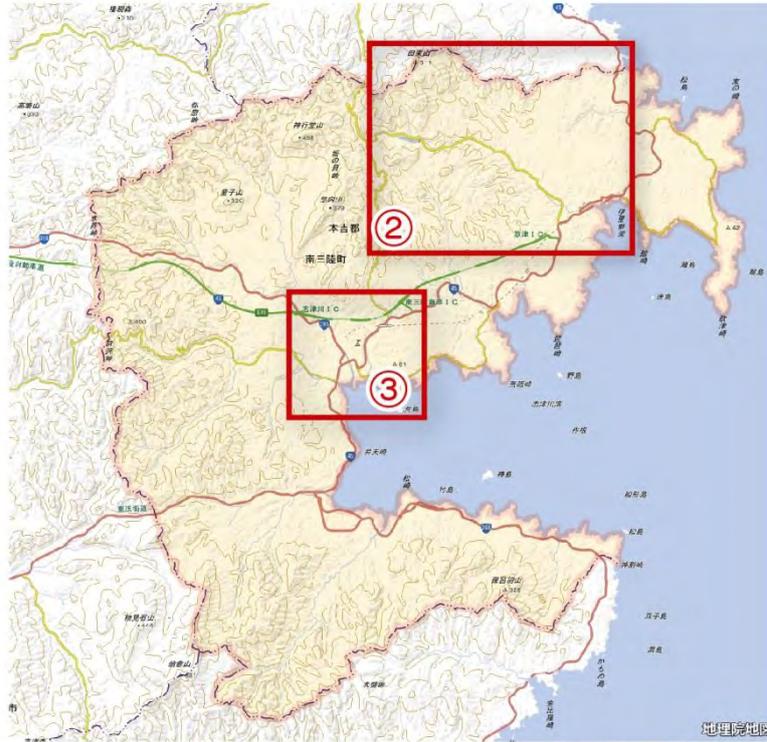
市町村の位置図 (地図等)



本図は国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 地質調査総合センター HP「地質図 Navi」
(<https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php#8,39.286,140.433>) の「川だけ地形図」(<http://www.gridscapes.net/>) を背景地図とし「鉱床・鉱徴地」情報をもとに追記・作成しました。

構成文化財の位置図 (宮城県南三陸町)

地理院地図を利用し作成



構成文化財の位置図 (宮城県南三陸町)

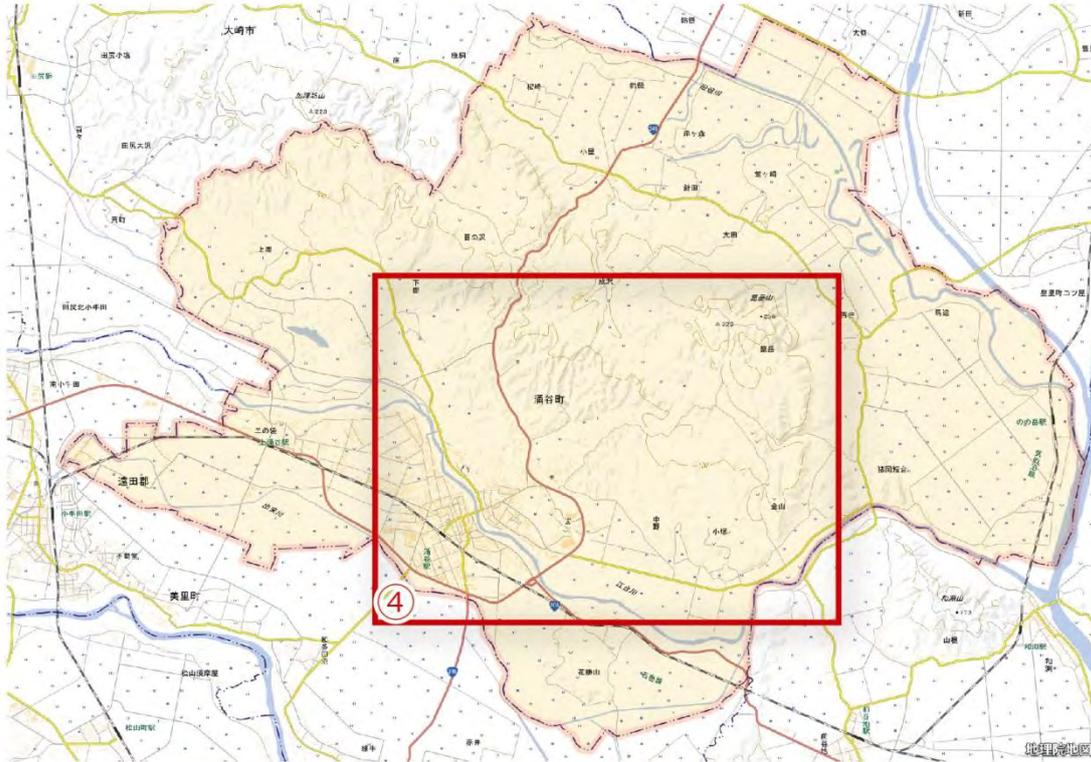
地理院地図を利用し作成

エリア③

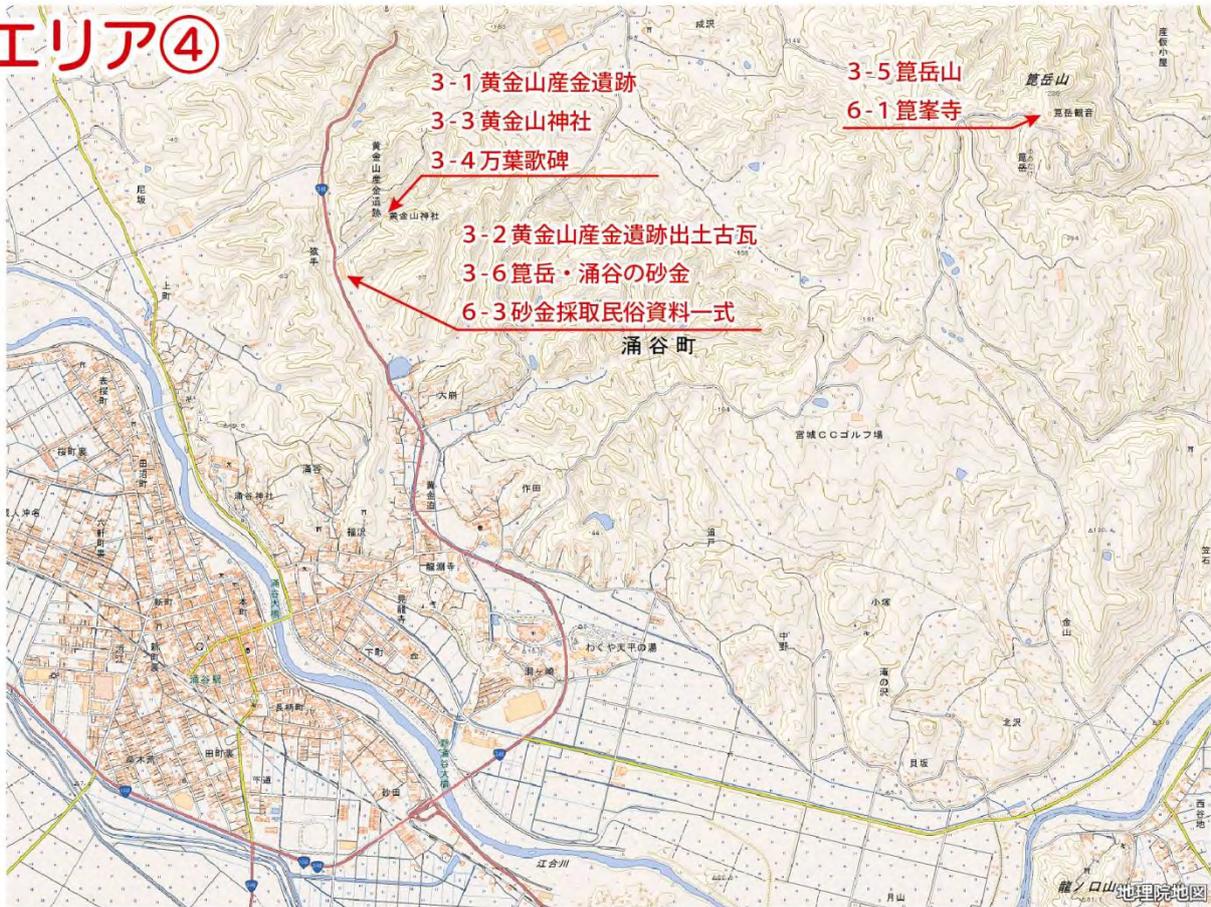


構成文化財の位置図 (宮城県涌谷町)

地理院地図を利用し作成

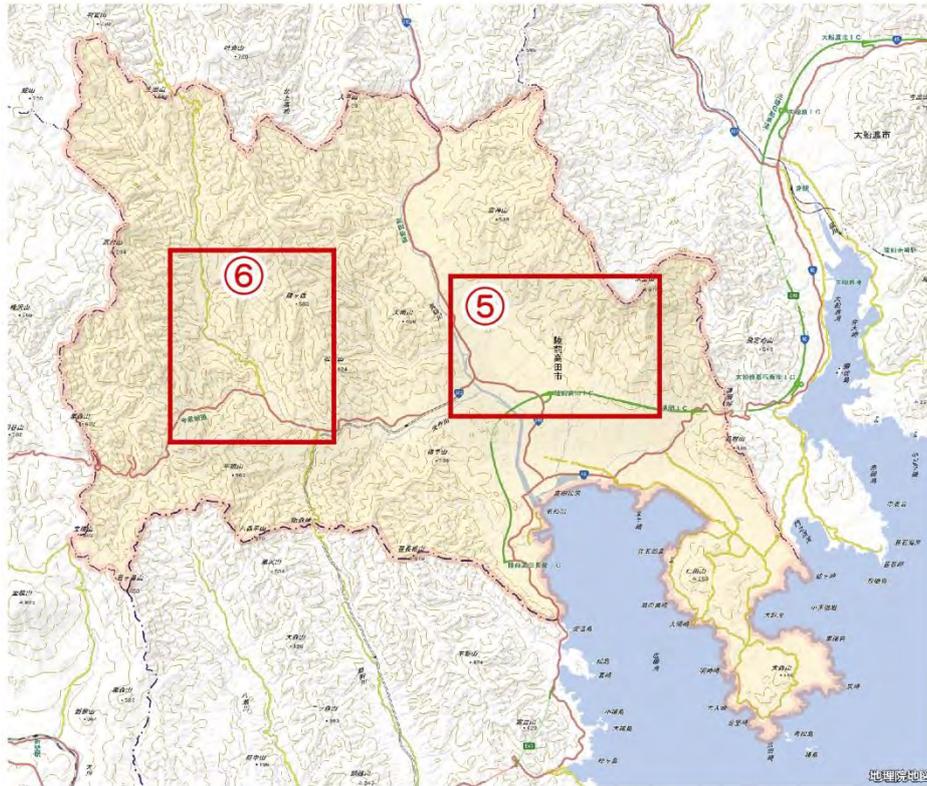


エリア④



構成文化財の位置図 (岩手県陸前高田市)

地理院地図を利用し作成



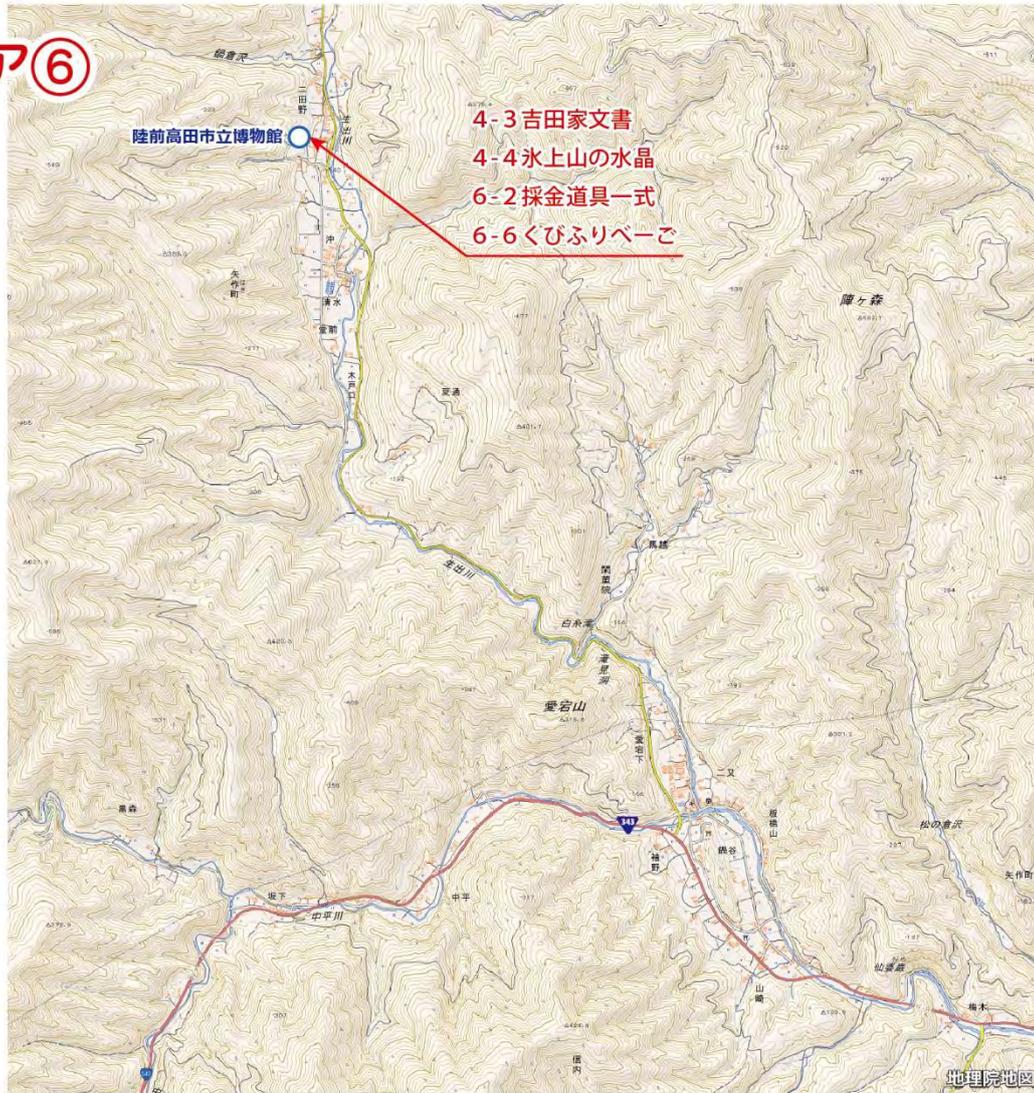
エリア⑤



構成文化財の位置図 (岩手県陸前高田市)

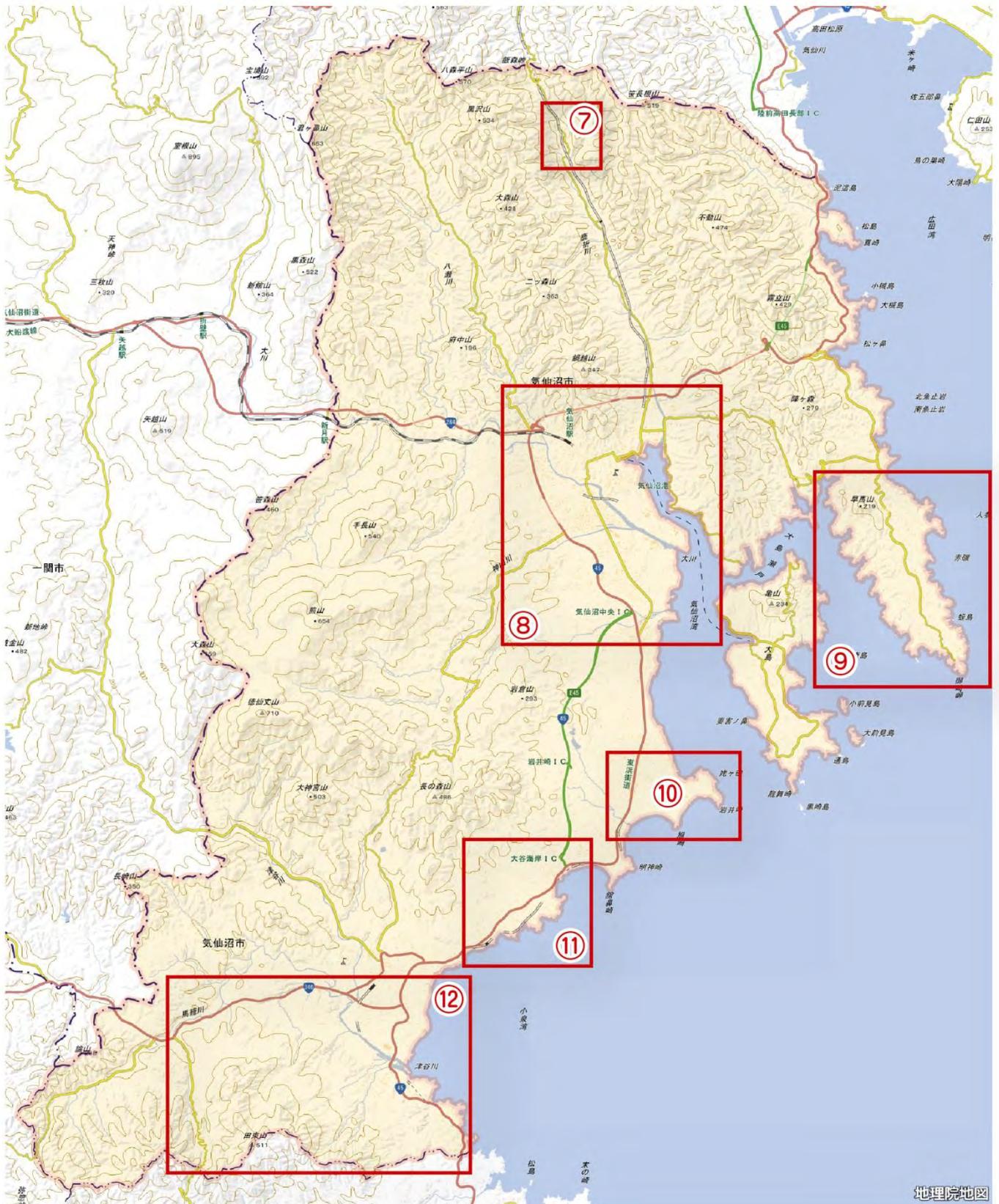
地理院地図を利用し作成

エリア⑥



構成文化財の位置図 (宮城県気仙沼市)

地理院地図を利用し作成



構成文化財の位置図 (宮城県気仙沼市)

地理院地図を利用し作成

エリア⑦



エリア⑧



構成文化財の位置図 (宮城県石巻市)

地理院地図を利用し作成



ストーリー

～はじまりは一粒の“砂金”から～

日本で初めて“金”が産出されたのは奈良時代の陸奥国。古来より「みちのく」と呼ばれ、現在の岩手県や宮城県を含むこの地には、約4億5千万から1億年前につくられた金鉱脈が眠る特異な地質が広がっています。「日本で“金”は採れない」とされていた当時の常識を覆した一粒の砂金の産出は、人々の心に“金”への憧れを生み出しました。

砂金採りに始まったみちのくの金採掘はやがて地域一帯の川や海に広まり、アジア有数の産金地へと成長し、鉱石から金を分離する技術が確立されると戦国武将たちは積極的に金山開発を推し進めました。近代、最新技術の導入によって大規模採掘が可能になると、みちのくの産金は最盛期を迎えましたが、昭和後期には終焉を迎えます。みちのくの地は、悠遠な地質史をベースに1,250余年に及ぶ日本の産金史が紡がれた稀有な場所でした。



みちのくGOLD遺跡群全体図

《奥州・平泉》 皆金色の理想郷



みちのくの“金”の象徴

みちのくの“金”。この言葉から真っ先に思い浮かぶのは、岩手県平泉町にある中尊寺「金色堂」ではないでしょうか。その眩さは、仏堂全面を覆う金箔だけではありません。須弥壇に使われた外国産の紫檀や象牙、夜光貝を用いた螺鈿、透かし彫りの金具や漆の蒔絵細工からは、潤沢な砂金を財源とした旺盛なグローバル取引によって、平安時代の細密工芸の粋が平泉に集められていたことをうかがい知ることができます。

しかし、“金”が果たした役割は富の象徴だけではありませんでした。末法思想の時代において、造営主である奥州藤原氏は、争いのない平和で平等な世を願い、世の中を明るく照らす理想郷を“金”によって具現しました。ゆえに、奥州藤原氏は“金”の供給地である北上山地や沿岸部の産金地を大切にしました。宮城県気仙沼市と南三陸町にまたがり、産金地を一望できる霊峰田東山には奥州藤原氏ゆかりの寺院跡や経塚群が残り、“金”の消費地・平泉とその理想郷の具現を支えた産金地との深いつながりを伝えています。



経塚群から眺める「みちのく」

《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地

では、産金地にはどのような場所があったのでしょうか。まずは日本初の産金地である宮城県蒲谷町の「黄金山産金遺跡」を紹介します。

749(天平21)年に発見された砂金は、奈良・東大寺盧舎那仏の鍍金(金メッキ)用に献上され、時の聖武天皇はその喜びから元号を天平から天平感宝に改めました。

頂から平泉や三陸地方が望める霊峰篔岳山の南麓、金色の大鳥居の先には、産金を記念して建立された仏堂跡と、その由緒を伝える「黄金山神社」が静穏な空間を創り出しています。神社の境内には初出を礼賛した大伴家持の万葉歌碑が建ち、みちのくと遥



金色に輝く大鳥居



産金を伝える神社

か奈良の都が“金”で結ばれたことを伝えています。神社の拝殿横を流れる黄金沢や篔岳山の沢では金色の光を放つ蛍が幻想的に舞い、心のトキメキを掻き立てるかのようで今でも砂金が見つかります。一粒の砂金から始まった日本の“金”の原点を体感することができる聖地、それが黄金山産金遺跡です。

《^{たまやま}玉山金山》 金山採掘の栄枯盛衰

戦国時代、鉱石から金を取り出す技術が確立されると、砂金採りに加えて金山の開発が始まりました。伊達政宗が金山奉行を置いて直接開発した岩手県陸前高田市の「^{りくぜんたかたし たまやま}玉山金山遺跡」は、^{かこうがん ひかみさん}花崗岩を基盤とする氷上山の西麓に位置し、膨大な量の“金”と仏像の玉眼にも使われた良質な水晶の産出によって、気仙4大金山の中核となりました。

来訪者を迎えるのは、気仙川沿いの金山入口に建つ高さ15mの塔です。戦争や震災の苦難を受けつつも常に地元の力で再建された塔には、金山に誇りを持つ人々の意志が込められています。道を進むと、金山の衰退に伴って里へと下った鉱夫の生活を支えるために開墾された段々の田畑が広がっています。この集落には、開墾の功績を讃える「^{まつざかしゅうべえさだなり}松坂十兵衛定成開拓地の碑」、鉱夫が信仰し



地域の誇りを示す塔



金山山頂に鎮座する守り神

た「^{しやうごんじ}竹駒神社」、金山へまた戻りたいとの想いが枝振りに顕われたとされる「^{しやうごんじ}莊厳寺の帰り松」が残り、往時の生活が偲べれます。山頂までの道々には「^{せいれんじょうあと}精錬所跡」や最盛期の坑道口「^{せんにんこう}千人坑」が残り、頂上には金山の守り神として祀られた「^{しやうごんじ}玉山神社」が鎮座し、盛山の事跡を伝えています。採掘した石英の欠片「ズリ」が広がり、雪原のように静寂に包まれた山頂と、里に広がる金色の稲穂が揺れる風景の対比が、金山に生きた人々の栄枯盛衰を物語っています。

《^{ししおり}鹿折金山・^{おおや}大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山

明治時代になり最新技術が導入されると、各地で大規模な鉱山開発が始まり、空前のゴールドラッシュが起こります。その熱気の中、宮城県気仙沼市の「^{ししおり}鹿折金山」では1904(明治37)年、日本最大の自然金“^{ししおり}モンスターゴールド”を産出。同年開催の米国セントルイス万国博覧会に出品され、世界に衝撃を与えました。



モンスターゴールド産出の坑道口

鹿折金山とともにゴールドラッシュを担った鉱山がありました。気仙沼市南部の丘陵地にそびえる「^{おおや}大谷鉱山」です。1935(昭和10)年頃の最盛期には年間約1tもの“金”を産出。巨大精錬所は不夜城と化し、約1,300人の従業員のため映画館・幼稚園まで備えた一大鉱山町が形成されました。そんな圧倒的存在感を有し日本経済の一翼を担った二つの鉱山も数十年前に閉山となり、自然に還ろうとしています。しかし、麓の資料館に残されたハンマーや磨り減ったタガネは、狭い坑道の中、経験と勘を頼りに岩盤を掘り進めた鉱夫たちの“金”への憧れや鉱山の賑わいを今に伝え、色褪せることのない魅力を届け続けています。



丘陵山腹の巨大精錬所跡

～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～



砂金採りが地域に浸透し、金鉱山の開発が進められる中で、産金で名を成した山々は地域に安定をもたらす聖地となり、“金”と人々の縁^{えにし}によって生み出された文化は「里」や「海」の人々へも伝播し、祝いや祈り、活気や賑わいの象徴として脈々と人々に受け継がれてきました。採金に用いられた道具類は「里」の生活に溶け込み、山の神に奉納された太鼓の音や作業唄は「海」の文化と融合して港町を彩る独特の芸能が開花しました。

私たちは、みちのくの地が育んだ山川と里、海とともに生きる風土の中に根付いた“金”との縁を“みちのくGOLD”と名付け、価値や魅力の掘り起しを開始しました。文化、信仰、産業、ありとあらゆる生活の中に隠れた“みちのくGOLD”の発見は、かのマルコ・ポーロが「黄金の国ジパング」と称した理想郷にも勝り劣らぬ、煌めく浪漫に満ち溢れています。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
～はじまりは一粒の“砂金”から～				
1-1	いわいさき 岩井崎 さんりくふっこうこくりつこうえん (三陸復興国立公園)	未指定 (天然記念物)	三陸リアス海岸の岬の1つであり、三陸ジオパークのジオサイトの1つ「岩井崎」は、浸食された岩の割れ目から高く吹き上げる潮が美しい景勝地であるとともに、日本列島では珍しい古生代の地質が剥き出しとなっています。金脈を探す指標である、地質の“へり”を間近に見ることができる貴重な場所には浪漫が溢れています。	宮城県 気仙沼市
1-2	ひかみさん 氷上山	未指定 (名勝、天然記念物)	約4億5千万年前の氷上花崗岩で構成される三陸ジオパークのジオサイトの山(874m)。古くから良質な金や水晶の産出で知られ、玉山金山遺跡は氷上山の中腹に位置しています。	岩手県 陸前高田市
1-3	けせんもとよしおんえず 気仙本吉御絵図	市有形 (歴史資料)	気仙郡(岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町を中心とする地域)と本吉郡(宮城県気仙沼市、南三陸町を中心とする地域)にある金山85か所を黄金色で示した近世絵図。広範囲に金資源が点在する様子がよく分かります。豊臣秀吉や伊達政宗など戦国武将たちが、金山を掌握し、積極的に採金事業を展開させた状況を具体的に示す貴重な資料です。	宮城県 気仙沼市
≪奥州・平泉≫ かいこんじき 皆金色の理想郷				
2-1	ちゅうそんじこんじきどう 中尊寺金色堂	国宝 (建造物の部)	「みちのく」の砂金をもとに築かれた皆金色の仏堂。金の加工はもとより、国内外産の物産をふんだんに使い当時の装飾技術をあますことなく使っています。造営主である奥州藤原氏は、財力を誇示するためではなく、争いのない平和で平等な世を願う理想郷を厳かな光を放つ「金」で表現しました。「黄金の国ジパング」に記載された「黄金の宮殿や民家」のモデルとなったと言われています。	岩手県 平泉町 (中尊寺)

2-2	きんぎんまきえかみぼこ 金銀蒔絵鏡箱	重文	金色堂と同様に当時の装飾技術をあますことなく使う鏡箱。平泉で生産されたもので、当時の平泉には、細密工芸の粋が集められていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産センター)
2-3	さきんふちやくかたくちぼちほへん 砂金付着片口鉢破片	重文 (考古資料)	集積した「みちのくの砂金」を金粉に加工する際に使われた道具。加工した金は蒔絵や金泥に使用されました。当時の平泉には、理想郷を具現するため、産出した金を集めると共に、それを活かすための工芸技術の粋が集められていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産センター)
2-4	ようかいきんふちやくるつぼはへん 溶解金付着坩堝破片	重文 (考古資料)	集積した「みちのくの砂金」を溶解する際に使われた道具。溶解した金は金銅製品に使用されました。当時の平泉には、理想郷を具現するため、産出した金を集めると共に、それを活かすための工芸技術の粋が集められていたことを示しています。	岩手県 平泉町 (平泉文化遺産センター)
2-5	たつがねさんきょうづかくん 田東山経塚群	県史跡	奥州藤原氏が神仏に祈りを捧げる拠点とした田東山三ヶ寺（清水寺、寂光寺、金峰寺）の中央、田東山山頂につくられた 11 基の経塚。末法思想が広がっていた平安時代末期、経典を後世に残すため、金銅製の筒に入れた経典を埋め、塚を築きました。奥州藤原氏が産金の拠点とした三陸地方、気仙本吉御絵図に記載される近世金山地帯が一望できる適地につくられています。理想郷の創造をすすめる奥州藤原氏が三陸の産金地域に与えた影響力の強さを物語ることのできる重要な遺跡です。	宮城県 気仙沼市 南三陸町
2-6	こんしきんでいだいはんにやきょう 紺紙金泥大般若経	県有形 (書跡・典籍)	奥州藤原氏が神仏信仰の拠点とした田東山「寂光寺」の什物として伝世する一切経。金銀泥で経文を書写しており、平泉中尊寺に残る紺紙金泥一切経の一卷と考えられています。当時の信仰が金によって支えられていたことを理解できるだけでなく、田東山に展開した仏教遺跡群が、奥州藤原氏の影響を強く受けていることを具体的に示す貴重な遺物です。	宮城県 南三陸町 (荒澤神社)

2-7	かんのんじこんどうそうおい 観音寺金銅装笈	市有形 (工芸品)	三陸地方と平泉中尊寺とのかかわりが深い観音寺に伝わる山伏が背負った笈。仏像や仏具・経典を納め、リュックサックのように使用します。全面に仏教的なモチーフが細工され、金で鍍金された優れた工芸品です。金工技術を今に伝える歴史的な工芸品です。	宮城県 気仙沼市
こがねやま 《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地				
3-1	こがねやまさんきんいせき 黄金山産金遺跡	国史跡	黄金山地区にある仏堂跡。日本初の産金について聖武天皇が「神仏が祝福したもの」と宣べたことを受け、採金の現地に建立した仏堂です。日本初の産金の場所がこの地であることを確定する重要な遺跡です。	宮城県 涌谷町
3-2	こがねやまさんきんいせき 黄金山産金遺跡 しゅつどこがわら 出土古瓦	県有形 (考古資料)	黄金山産金遺跡に建てられた仏堂に使われた屋根瓦。瓦の形状から円堂形式の仏堂が建てられたこと、『天平』と年号を記載した瓦が含まれるため仏堂の建築年代を天平年間に限定することができます。遺跡の内容を具体的にする重要な資料です。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
3-3	こがねやまじんじゃ 黄金山神社	拝殿：町有形 本殿：未指定 (建造物)	産金を記念して建てられた仏堂跡の上に建つ神社。神社の由緒は日本初の産金時まで遡り、近世まで金を産する山自体が御神体であったと伝えられています。産金を記念して建てられた仏堂が遺跡となった後も、日本初の産金地がこの場所にあることを伝えて続けてきた由緒ある神社です。	宮城県 涌谷町
3-4	まんようかひ 万葉歌碑	未指定 (有形)	黄金山神社境内にある歌碑。聖武天皇とともに産出の喜びを詠う大伴家持の万葉歌を刻んでおり、「小田郡(涌谷町)にある山」で産出した「金」が、はるか奈良の都に運ばれ国家的な慶事となったことが詠み込まれています。「みちのくの金」を象徴する歌碑となっています。	宮城県 涌谷町

3-5	ののだけさん 籠岳山	未指定 (名勝、天然 記念物)	涌谷町域の中心に位置する霊峰籠岳山(236m)。黄金沢を始めとして、砂金を産出する河川が山中を流れています。万葉歌に「小田郡(涌谷町)にある山」で産出したとあり、この山を舞台に日本初の採金事業が展開したことが明らかとなっています。	宮城県 涌谷町
3-6	ののだけ わくや さきん 籠岳・涌谷の砂金	未指定 (天然記念物)	涌谷町の籠岳山から産出する砂金。地層の中に砂金が堆積する二次鉱床を起源とします。日本の採金史が「砂金採り」にはじまることを明示する鉱物です。749(天平21)年に初めて採取した砂金は、東大寺盧舎那仏の鍍金(金メッキ)材料として用いられました。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
《玉山金山》 金山探掘の栄枯盛衰				
4-1	きんざんごほんばん 金山御本判	市有形 (歴史資料)	豊臣秀吉がはじめた金採取制度の許可証。個人や少人数で稼働する、砂金採取や鉱石の露天掘りを許可した木製の許可書です。秀吉以後も伊達政宗が継承し実施。やがてこの制度を通じて採金は、人々の生業の1つとして地域に広く根付いていきました。古代から続く「みちのく」の砂金採取は、近世になっても為政者たちを魅了していたことを示しています。	宮城県 気仙沼市 (リアス・アーケ 美術館)
4-2	たまやまきんざんいせき 玉山金山遺跡	未指定 (史跡)	氷上山中腹に位置する金山。江戸時代、伊達政宗が積極的に金山開発を行い「気仙4大金山」の1つと呼ばれました。精錬所跡、検問所跡、千人坑などの遺構が山中に点在しており、近世の金山についてその全容を知ることができます。	岩手県 陸前高田市

4-3	よしだけもんじょ 吉田家文書	県有形 (古文書)	気仙地区の金山に関する記述が多数みられる古文書。吉田家は気仙地区の大肝入(庄屋)を勤めた家柄で、当時の金山の稼働の様子が書かれています。豊臣秀吉や伊達政宗など時の為政者たちが、積極的に採金事業を展開させた状況を具体的に示す貴重な資料です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市博物館)
4-4	ひかみさん すいしょう 氷上山の水晶	未指定 (天然記念物)	氷上花崗岩にできた鉱床から産出する水晶。水晶は、花崗岩の主要構成鉱物である石英(金鉱石)が結晶化したもので、仏像の玉眼に使用されました。今も玉山金山の廃石の中に見つけることができます。金鉱石を特徴づける貴重な資料です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市立博物館)
4-5	せかいだいいせきたまやまれのいき 「世界大遺跡玉山霊域」 とう の塔	未指定 (歴史資料)	昭和7年のJR大船渡線竹駒駅の開設とともに、金山を顕彰しその名を後世に伝えたいという地域の方々の強い思いで設置された塔です。戦争や震災で幾度も破壊されましたが、その度毎に地域住民の力で再建され今に至っています。金山の繁栄が如何に多大な影響を地域社会に与えたのかを知る上で欠かす事のできない貴重な歴史資料です。	岩手県 陸前高田市
4-6	たまやまじんじゃ 玉山神社	未指定 (史跡)	竹駒神社と共に金山の守護神として勧請された神社。奥州藤原氏や伊達氏が深く信仰しました。境内周辺は金鉱石や水晶化した鉱石が露出しており、当時の佇まいを今に伝えています。	岩手県 陸前高田市
4-7	まつざかじゅうべいさだなり 「松坂十兵衛定成」 かいたくち ひ 開拓地」の碑	未指定 (有形)	衰退する金山で働く鉱夫の生活を支えるため、山間部を田畑として開拓した事跡を顕彰する碑。碑の周辺の田畑は、「新田」の地名で呼ばれています。	岩手県 陸前高田市

4-8	まつざかせき 松坂堰	未指定 (史跡)	衰退する金山で働く鉱夫の生活を支えるため、開拓した新田に壺の沢川から水を引いた用水堰。玉山金山の開発で培われた引水技術や坑道掘削の際の測量技術を利用してつくられています。堰からのびる幹線水路約1キロメートルは、現在も使用されています。	岩手県 陸前高田市
4-9	たけこまじんじゃ 竹駒神社	未指定 (史跡)	玉山神社と共に金山の守護神として勧請された神社。玉山神社と対をなし、金山を守護してきた重要な社です。奥州藤原氏や伊達氏が深く帰依しましたが、金山の衰退とともに里において現在地に遷座しました。金山の栄枯盛衰を物語る貴重な文化財です。	岩手県 陸前高田市
4-10	しょうごんじ かえ まつ 莊嚴寺の返り松	未指定 (天然記念物)	莊嚴寺の境内にある松（樹齢約200～400年）。玉山金山所縁の寺院であった莊嚴寺が、金山の衰退により現在の地へ遷座するに伴い、植えられました。「玉山に帰りたい願を龍のようにくねる姿で表している」と言われており、里人の金山に対する思いを象徴する松として親しまれています。	岩手県 陸前高田市 (莊嚴寺)
《<small>ししおり</small>鹿折金山・<small>おおや</small>大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山				
5-1	ししおりきんざんあと 鹿折金山跡	未指定 (産業遺産)	気仙沼市鹿折川上流に位置する金山。明治時代の金山近代化の中で、世界を驚嘆させた日本最大の自然金「モンスターゴールド」を産出しました。「みちのく」の金山を、国家を支える資源にさせる立役者となった金山です。山麓の旧鉱山事務所から山中にかけて、坑道跡やトロッコ跡、鉱石を投棄したズリの山が点在しています。	宮城県 気仙沼市

5-2	ばんこくはくらんかい セントルイス万国博覧会 だいしょうじょう 大賞状	未指定 (歴史資料)	明治 37(1904)年、鹿折金山では重さ 2.25 キロ、含有率 83%の怪物金「モンスターゴールド」を採掘しました。小さな金塊すら産出が難しい中、その大きさは世界に驚愕を与え、同年開催のアメリカ・セントルイス万国博覧会に出品され、青銅メダルを受賞します。これはその受賞を記念した大賞状です。「黄金の国ジパング」の底力を世界に示し、みちのくの黄金産出の実態を見せた証となっています。	宮城県 気仙沼市 (鹿折金山資料館)
5-3	ししおりきんざんさいくつしりょういっしき 鹿折金山採掘資料一式	未指定 (歴史民俗資料)	鹿折金山で鉱石の採掘や選鉱に使用した資料。採掘具や金を溶かした溶鉱炉をはじめ古写真や文書類などで構成しています。金山採掘の過程や怪物金「モンスターゴールド」に関する記録が含まれており、近代化していく金山の様子がよくわかる資料です。	宮城県 気仙沼市 (鹿折金山資料館)
5-4	おおやこうざんあと 大谷鉱山跡	未指定 (産業遺産)	気仙沼市大谷地区にある金鉱山。鹿折金山でのモンスターゴールド産出の影響を受け、明治 38(1905)年に採掘を開始し、昭和 51(1976)年まで操業し鉱山町を形成しました。1250 余年に及ぶ、採金事業の中で最終形態を示した貴重な遺産です。山腹にそびえる、コンクリート造りの巨大な精錬所跡は、当時の繁栄ぶりを偲ばせるモニュメントとなっています。	宮城県 気仙沼市
5-5	おおやこうざんさいくつしりょういっしき 大谷鉱山採掘資料一式	未指定 (歴史民俗資料)	大谷鉱山で鉱石の採掘や選鉱に使用した資料。鉱員たちが使用した採掘具をはじめ、掘削や選鉱に関わる機械や文書、写真記録などで構成しています。日本の近代金鉱山が辿った大規模化と繁栄、そして時世により閉山を迎える有り様までを伺い知る貴重な資料です。	宮城県 気仙沼市 (大谷鉱山歴史資料館)
5-6	おおやこうざんさいくつきんこうせき 大谷鉱山採掘金鉱石	未指定 (産業遺産)	大谷鉱山で採掘した金鉱石。北上山地南部地域の自然金は、肉眼でも確認できるような粒で発見できることが多いのが特徴とされており、この金鉱石でも容易に金粒を見つけることができます。砂金採りを始めとする事業が広く普及したのもこうした「みちのくの金」の特徴があるからと言えます。	宮城県 気仙沼市 (大谷鉱山歴史資料館)

～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～				
6-1	こんぼうじ 篋峯寺	観音堂・白山社・仁王門：町指定(建造物)	日本初の金を産出によって「神仏の加護を受けた聖なる山」と位置付けられた篋岳山は、平安時代になると山岳信仰と結びつき「みちのくに安泰をもたらす聖地」と認識されるようになりました。一山寺院「篋峯寺」は、創建から1,250年を経た今も山頂を「殺生禁断」の聖域としてまもり続けており、地域信仰の拠点となっています。篋峯寺は、産金で名を馳せた山が聖地化する中で、地域の安定を願う信仰の対象へと昇華したことを示す好例です。	宮城県 涌谷町
6-2	さいきんどうぐいっしき 採金道具一式	未指定(民俗資料)	川での砂金採取や、鉱石から金を取り出す際に使われた道具類。古代より続けられてきた砂金採りは、近世の御本判制度を通じ、地域の人々生活を支える生業として根付きました。また、鉱石から採取する金山についても、その稼働が終了した後も個人経営による採金事業として里の中に定着し、近年まで採金事業が続けられてきました。暮らしの中に溶け込み、息づいてきた道具です。	岩手県 陸前高田市 (陸前高田市立博物館)
6-3	さきんさいしゅみんぞくしりょういっしき 砂金採取民俗資料一式	未指定(民俗資料)	篋岳山の沢での砂金採取に使われた道具類。古代より続けられてきた砂金採りは、近世の御本判制度を通じ、地域の人々の生活を支える生業として根付きました。日本初の産金地である涌谷町でも、近年まで、農閑期の副業として砂金採りが行われてきました。暮らしの中に溶け込み、息づいてきた道具です。	宮城県 涌谷町 (天平ろまん館)
6-4	えんうんかんでいえん 煙雲館庭園	国名勝	江戸時代、気仙沼に拠点を置いた仙台藩上級家臣・鮎貝氏の庭園。金鉱石をすり潰すのに使われた金山用の石臼が庭石として転用されています。近世金山が乱立し、古代から続く採金事業が広く根付いてきた地域だからこそ、こうした庭園が生まれました。金の採取に使われた道具類が地域の生活に溶け込んだことを示す好例と言えます。	宮城県 気仙沼市

6-5	ひでひらぬり 秀衡塗	未指定 (工芸品) (経済産業大臣指定 伝統的工芸品)	金色堂をはじめとする金の加工・細工技術を今に伝える伝統的工芸品。藤原秀衡が京より職人を招来し、産出した砂金をふんだんに使って豪華絢爛な器を作らせたのが起源とされます。	岩手県 平泉町
6-6	くびふりベーゴ	未指定 (民俗資料)	玉山金山で産出した金を俵につめ、牛で運ぶ姿を模した張子の郷土玩具。江戸時代から製作されている伝統工芸品で、金山の繁栄を偲ぶ一品として地域に受け継がれてきました。	岩手県 陸前高田市
6-7	こだてすずきけいじゅうたく 古館鈴木家住宅	未指定 (建造物、 歴史資料)	江戸時代、鹿折金山などの金山開発や砂金徴収を任された唐桑の旧家の住まい。古館鈴木家は延宝3(1675)年、紀州熊野から鰹釣り溜漁を伝え、のちに漁業や醸造業など、時代に合わせた多角的な家経営を展開し、明治時代には大谷鉦山の再開発も手掛けました。古館鈴木家に残されている金掘り関係の古文書から、この地方で盛んに金掘りが行われていたことが分かります。この地域に浸透した「金」採掘、海と共に生きた旧家の在り方を伝える好例です。	宮城県 気仙沼市
6-8	けせんぬまこう かざま ふうけい 気仙沼港と風待ちの風景	未指定 (文化的景 観・国登録有 形文化財)	江戸時代、この地域での金掘りは生活の糧として根付き、日常的に盛んに行われるようになりましたが、盛んになればなるほど長期にわたり安定した金の産出量を確保することは難しく、地域の大きな負担となっていました。気仙沼では、鰹漁などを導入しながら金掘りを継続、やがて風を受けて出帆するたくさんの船がひしめく「風待ち港」として発展していきます。気仙沼では、山師(鉦夫)たちが拓き、支えてきた港町だと言われています。「気仙沼港と風待ちの風景」には、採金が「みちのく」の風土に解け込み、港町を発展させた歴史が込められています。	宮城県 気仙沼市

6-9	け せんぬま う ばやし 気仙沼の打ち囃子	一部指定 (無形民俗文化財)	金の産出を祝う「山の神」祭りで奉納された太鼓囃子。港町の発展と共に、航海の安全や大漁も祈願する芸能として根付きました。躍動感があり勇壮な太鼓の響きは、採金の中で生み出された文化が海の文化と結びつき、「活気や賑わいの象徴として脈々と人々に受け継がれてきた」ことを感じさせる貴重な郷土芸能です。	宮城県 気仙沼市
6-10	け せんぬま たいりょうたいこみ 気仙沼の大漁唄込 ・ しびたちたいりょうたいこみ ・ 鮪立大漁唄込 ・ さきはまたいりょうたいこみ ・ 崎浜大漁唄込	市指定 (無形民俗文化財)	金山で働く鉱夫たちの労働唄が、漁師たちに伝わって大漁を祝う唄となった。金山からもたらされた文化が海の文化と融合し、地域産業の発展と共に育まれていったことを強く実感させる郷土芸能です。「みちのくの地が育んだ山川と里、海とともに生きる風土の中に根付いた“金”との縁」を物語る特色ある文化財です。	宮城県 気仙沼市
6-11	きんかさんもうで 金華山詣	未指定 (民俗)	出羽三山、恐山とともに東奥の三大霊場に数えられる金華山。「みちのくの金」が日本の金を代表するブランドとなっていくなかで、近世以降の金華山は、黄金伝説と結びつき信仰の聖地となり、「金華山詣」として大きく発展しました。現在も「黄金の神が坐す祈りの島」として信仰が息づいています。	石巻市
6-12	きんかさんどう 金華山道	未指定 (景観)	石巻から金華山に向かう参詣道は「金華山道」と呼ばれました。明治初期まで女人禁制が敷かれており、女性たちは金華山には登拝せず、山鳥に立てられた「一の鳥居」から遙拝しました。現在は女人禁制が解かれ、鮎川港から直接金華山にわたることができますが、金華山道の終点である「山鳥の渡し」周辺は、「一の鳥居」やかつての船着場や古道が残り、当時の景観をいまに伝えています。	石巻市

- (※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

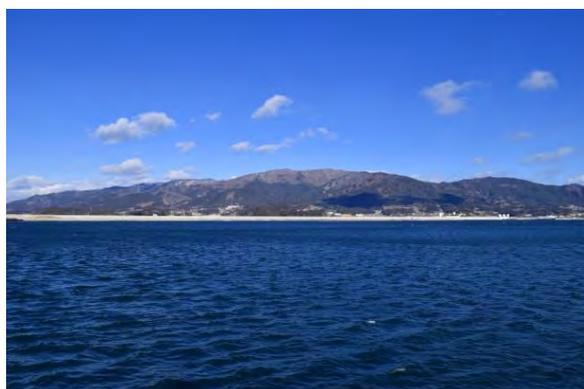
構成文化財の写真一覧

～はじまりは一粒の“砂金”から～

1-1 岩井崎（三陸復興国立公園）



1-2 氷上山



1-3 気仙本吉御絵図



《奥州・平泉》^{かいこんじき} 皆金色の理想郷

2-1 中尊寺金色堂



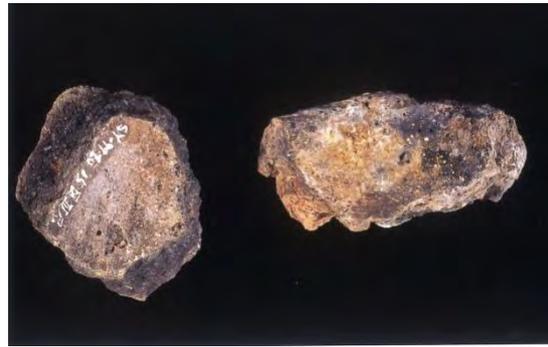
2-2 金銀蒔絵鏡箱



2-3 砂金付着片口鉢破片



2-4 溶解金付着坩堝破片



2-5 田東山経塚群



2-6 紺紙金泥大般若経



2-7 観音寺金銅装笈



こがねやま
《黄金山産金遺跡》 日本の“金”発祥の聖地

3-1 黄金山産金遺跡



3-2 黄金山産金遺跡出土古瓦



3-3 黄金山神社



3-4 万葉歌碑



3-5 篔岳山



3-6 篔岳・涌谷の砂金



たまやま
《玉山金山》 金山採掘の栄枯盛衰

4-1 金山御本判 (左が表面・右が裏面)



4-2 玉山金山遺跡



4-3 吉田家文書



4-4 氷上山の水晶



4-5 「世界大遺跡玉山霊域」の塔



4-6 玉山神社



4-7 「松坂十兵衛定成開拓地」の碑



4-8 松坂堰



4-9 竹駒神社



4-10 荘厳寺の返り松



《^{ししきり}鹿折金山・^{おおや}大谷鉱山》 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山

5-1 鹿折金山跡



5-2 セントルイス万国博覧会大賞状



5-3 鹿折金山採掘資料一式



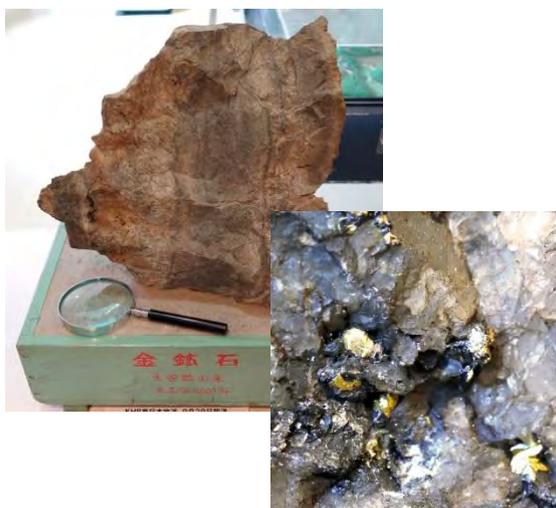
5-4 大谷鉱山跡



5-5 大谷鉱山採掘資料一式



5-6 大谷鉱山採掘金鉱石



～花咲け“みちのくGOLD”浪漫～

6-1 篔峯寺(観音堂)



6-2 採金道具一式



6-3 砂金採取民俗資料一式



6-4 煙雲館庭園 (下は庭石に転用された鉱山白)



6-5 秀衡塗



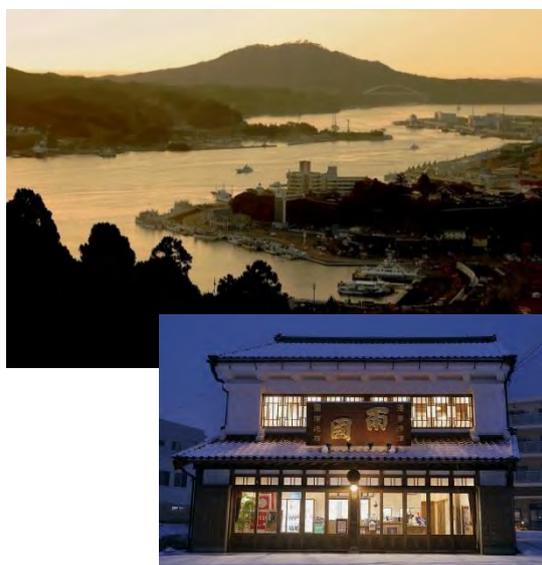
6-6 くびふりべーご



6-7 古館鈴木家住宅



6-8 気仙沼港と風待ちの風景



6-9 気仙沼の打ち囃子



6-10 気仙沼の大漁唄込



6-11 金華山詣 (金華山)



6-12 金華山道 (道碑、一の鳥居)



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

【はじめに】

約4億5千万年から1億年前までにつくられた金鉱脈が、749年(天平21年)に「砂金」として宮城県涌谷町から初出。以来昭和時代に至るまで、宮城県北部と岩手県南部地域＝「みちのく」の地は、あまたある鉱物資源の中、万国共通の価値をもつ「金」に特化し産出してきたという誇りある歴史と記憶を有しています。その「みちのくGOLD」の歴史は、時代の変化に左右されず、日本の財政的・文化的側面に大きく寄与してきました。現在、鉱物資源としての「みちのくGOLD」は衰亡しましたが、受け継がれてきた遺産遺構は数多く残されています。

先人の営みを顕彰すると共に、悠久の時を経ても色褪せることのない浪漫に満ち溢れた遺産遺構をさらに磨き上げて活用することが、域内外を行き交う交流人口・関係人口を拡大させるとともに、「みちのく」が「金」のように永劫に輝き続けていくために必要な次代の担い手育成と産業の発展につながるものと確信し、「みちのくGOLD浪漫」と名付けました。



【「みちのくGOLD」を「日本の金山」、そして、「日本の財」へ】

日本遺産申請を契機に結束した、宮城県涌谷町・気仙沼市・南三陸町、岩手県陸前高田市・平泉町の5市町は、地域活性化の戦略の一つとして日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を掲げ、10年後の様々な人が行き交うJR東京駅構内で「日本の金山といえば」という問いに国民の誰もが「みちのく」と答えるよう、今後新たに策定される各市町の総合計画内にも位置づけ、次の地域を目指します。

- ①地域の財(たから)が日本の財(たから)であることの誇りの醸成：「みちのくGOLD浪漫」の日本遺産認定の旗印の下、日本の財として有形無形の文化財の磨き上げ、関係人口・交流人口増大に寄与するシビックプライドを持った住民を育みます。
- ②「みちのくGOLD」にかかわる文化財・歴史の持続的な地域資源化：長期的な視野に立って「みちのくGOLD浪漫」の象徴としての金山遺跡群とそこにかかわる有形・無形の文化財を磨き上げ、枯渇することのない持続可能な日本の財(たから)へと昇華させます。
- ③日本唯一の黄金観光交流ルート「みちのくGOLD浪漫」ツーリズム：“黄金の国ジパング”の根源ともいえる産金地・三陸沿岸南部地域と消費地・北上山地南部をつないだ東西軸交易ルートを、「みちのくGOLD」を産出してきた各時代の浪漫が薫る黄金観光交流ルートとして確立します。
- ④持続可能な自立した生業の創出：日本遺産認定を契機とした事業を着実に実行し、「みちのくGOLD」を活かした既存の産業の活性化を果たすと同時に、次世代を担う人々が新たに起業・創業し自立できる地域経済へと導きます。

【東日本大震災からの完全なる復興に向けて】

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を旗印として掲げ、2020年東京オリンピック・パラリンピックや2025年大阪万博まで続くことが考えられる外国人観光客の増加の流れをしっかりと手繰り寄せ、「みちのく」の経済活性化を果たすことで、東日本大震災からの完全なる復興を後押しします。

(2) 地域活性化のための取組の概要

私たちが掲げる将来像を実現するため、次のような地域活性化に向けた取り組みを実行してまいります。

①「みちのくGOLD浪漫」に対するシビックプライドを住民に醸成する取り組み

住民が、地域に伝承される歴史や文化に対して真に誇りを感じ、自発的に域外への発信や域内での活動を行うほどの地域でなければ、観光客は訪れません。地域の文化に誇り・郷土愛を感じる住民の割合の増加と、歴史・伝統・文化の教育による持続的かつ発展的な郷土づくりを目的に、日本の財(たから)である「みちのくGOLD浪漫」ならではの取り組みとして、かつてみちのくの住民が挑んだように、現代の住民が自ら採み採集した「みちのくGOLD」を原材料として使用する象徴としての「金メダル」を作成し、「みちのく」ゆかりのスポーツや文化、産業技術などで国際的に活躍する人物に贈呈し、「みちのく」の底力を示すと同時に「日本の金山」＝「みちのく」の地位を築きます。

並行して認定後すぐに、内部(構成市町の住民)に対して、構成市町はもとより、宮城県・岩手県や教育委員会、保存会、各種メディアと協議会活動を通じて連携し、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」に関する周知を行います。住民が誇りを感じる郷土づくりのために、児童生徒向けの読み物を作成しつつ、将来的に域外の子どもたちも歴史・伝統・文化を学べる機会となる教育旅行プログラムを各構成市町ごとに整備します。

また、大人向けに、「みちのくGOLD浪漫」を「日本の財」として子孫に語り継ぐよう、シンポジウムの開催やガイド養成講座による啓発に努めます。

その他に、補助事業外の取り組みとして、構成市町が連携し、歴史文化基本構想に組み込んだ域内の金に関連する文化資産の悉皆調査や各市町の広報誌・ホームページ上で日本遺産認定にまつわる連載やコンテンツを整備し、日本遺産認定に関する認知度向上と機運醸成を図ります。

その成果として郷土愛を感じる住民の割合を増加させ、域外への自発的な情報発信を促します。

②日本唯一の黄金観光交流ルート「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムを確立する取り組み

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を旗印として掲げるツーリズムが、持続的かつ発展的に自立していくためには、ツーリズムのターゲット設定を明確にし、アプローチしなければなりません。

海外は、東日本大震災以降、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて東北地方で堅調に増加しつつある韓国・中国・台湾・香港といった「金」に親和性の高い東アジア圏を中心に、伸び代が期待されるアメリカやヨーロッパ(東北地方における観光の現状・東北運輸局観光部調べ)などを対象として、国内は、鉄道で約3時間程度で訪れることが可能で、日帰りではなく滞在し周遊観光が可能な時間とお金に余裕があり、新幹線によってアクセスが比較的容易で歴史・文化・自然に関心が高い首都圏のアクティブシニアをターゲットの中心としながら、観光客入込数の増加、民間の観光案内所・宿泊施設・飲食店・土産物店・公共交通網の整備・拡充、大手旅行会社による周遊観光ツアー企画催行を目的として、認定後に実施する事業の効果・効率を最大化するため、日本国内外に対する「金」関連の旅の市場調査を実施します。

この調査は、域内の構成市町だけではなく、協議会を組成する各地の観光協会や商工会、民間事業者、旅行会社、公共交通機関事業者、各種メディアと連携して実施。浮き彫りになる強み・弱み・機会・脅威を分析し、「みちのくGOLD」に縁の深い聖地を含むモデルコースの策定とファミトリップによる検証を実施しながら、「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムの確立を図ります。

調査結果に基づき、旅人の受け皿となり得る観光案内所や宿泊施設、飲食店、土産物店、公共交通機関などに「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる連携を働きかけ、回遊性の向上と経済活動の活性化を促進し、域内への観光客入込数の増加へとつなげてまいります。特に、内陸部と沿岸部の周遊に必要な不可欠な二次交通(地域交通・レンタカー・レンタサイクル等)を配備するためのネットワークを早急に構築します。

③「みちのくGOLD浪漫」を五感で楽しむアクティビティ・ギフトを創出する取り組み

「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムが、持続的かつ発展的に自立していくためには、現地にお金が落ちる経済性・仕組みづくりが伴わなければなりません。域内の参画事業者の増加と将来的に自走できる仕組みづくりを目的に、構成市町と民間の事業者（旅行会社・宿泊施設・土産物店・飲食店・メディア等）・団体(DMO・観光協会・商工会等)、農水産業生産者、地域住民が各種事業への積極的な参画によって連携し、各地の「みちのくGOLD」に関連する歴史・伝統・文化に裏付けられた着地型観光商品としてのアクティビティや食事、お土産品の開発に向けた地域資源の掘り起し・磨き上げを行うワークショップを定期的に開催。

また、現在は立ち入りが制限されているが、産金の浪漫薫る鉱山跡地などを、その地を管理する企業・団体と連携した聖地回顧ツアーなども企画。

その成果として、地域経済の活性化や起業・創業の促進、担い手(歴史文化伝承の担い手・観光ガイド(語り部)・産業の担い手)育成につなげていきます。

④「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムの魅力発信により観光客を周遊促進させる取り組み

魅力的なツーリズムを創り上げても、その周知が図られなければ意味がありません。観光客・外国人入込数の増加、域内での周遊促進を目的として効果的に観光客を呼び込めるよう、「みちのくGOLD浪漫」関連の旅の市場調査に基づきながら、観光協会や商工会、民間事業者と連携した魅力を総合的に紹介する多言語対応したホームページ・動画チャンネル(YouTube・Youkuなど)を整備しながら、構成市町の今を適時紹介するツールとしてSNS(Facebook・Instagram・微博など)を運用します。

その観光客の自発的な情報発信の促進と周遊促進のための期間限定のアート展を「みちのくGOLD浪漫」の聖地において開催します。

現地を訪れた旅人を適切に案内できるよう、ゲートウェイ地へのビジターセンター・中継地へのサテライトセンターや周遊促進アプリケーション、構成市町内にある遺産遺構や公共施設に統一ロゴタイプに基づいたデザインフォーマットの案内看板の設置などを整備します。

併せて「みちのくGOLD浪漫ツーリズム」への観光客の斡旋につながる旅行会社や域外の観光関係者向けのセールスツールを作成し、仙台空港や首都圏のツーリストインフォメーションセンターなどとも連携し効果的にアプローチすることで、観光客の増加と域内周遊の促進、地域経済の活性化につなげます。

(3) 自立的・継続的な取組

日本遺産魅力発信推進事業が完了する3年後以降も継続して日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を推進していくため、補助対象期間の3年以内に次のような体制・取り組みを確立します。

①自立的・継続していく体制・組織の確立(31年度から)

継続的かつ自立した取組を展開していくためには、協議会を昇華させた母体となり得る法人・DMOの設立が必要不可欠です。補助金だけに頼らず、構成市町および関係機関、企業・団体・既存DMOと連携しながら事業を運営し、開発した商品の「みちのくGOLD浪漫」ブランドのライセンス使用等による収益や負担金の受け皿となる体制・組織の確立を目指します。

②日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の担い手育成(31年度から)

体制・組織を確立する上で必要となるのが担い手です。文化財面と産業面の両面で、担い手育成事業を実施し、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を支える偏りがなく、担い手が新たな担い手を生み出していく流れをつくります。

③観光客の窓口の整備と周遊を促進するための二次交通の確立(31年度から)

観光客に満足できる旅を提供できるよう、観光客を出迎え、迷わず目的地まで案内できる現地案内所と観光客がスムーズに目的地までたどり着かせる二次交通(路線バス・レンタカー・レンタサイクルなど)を整備します。

④所有ホームページによる通販と外部サイトとのAPI(Application Programming Interface)連携(32年度以降)

「みちのくGOLD浪漫」ブランド関連商品を販売するECサイトを構築し、商品販売による地域経済の活性化と販売手数料収入による自主財源確保を図ります。

併せて、旅行予約サイトと「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムホームページとを宿泊や現地アクティビティなどの予約決済の仕組みについて連携し、所有するホームページを経由して契約が成立した場合には、手数料が支払われるよう連携し、ホームページを情報発信プラットフォームとしての利便性を高めつつ、自主財源の確保へとつなげていきます。

⑤マネタイズ可能なアプリの開発(32年度以降)

「みちのくGOLD浪漫」ツーリズム周遊促進アプリの開発にあたり、単なるガイドアプリではなく、日本人・外国人問わずお金を出してでも使いたくなり、拡散したくなるアプリを開発し、そのアプリ販売収益とECサイトとも連携させることによる自主財源の確保を図ります。

⑥ふるさと納税・クラウドファンディングの活用(31年度から)

構成市町が運用するふるさと納税や、ふるさと納税サイトを活用したガバメントクラウドファンディング、民間主導のクラウドファンディングを運用し、集めた寄付金によって、各種事業の実施費用や整備費用、文化財の修繕・更新費用にあてます。

⑦ネーミングライツ・広告等のスポンサー募集(31年度から)

日本遺産認定に伴い多くの観光客の訪問が見込める日本遺産構成文化財に関連する施設等において、ネーミングライツ企業を募集するとともに、パンフレット等の印刷物やホームページのバナーの広告主を募集し、広告料収入による経費補填を行います。

⑧小中学校におけるふるさと教育や大人に向けたボランティア養成(31年度から)

継続的かつ発展的な歴史・伝統・文化継承のために、構成市町における小中学生の学校教育の現場に、ふるさと教育として「みちのくGOLD浪漫」にまつわる学習機会を創出しながら、親子で楽しみながら学べる読み物の整備等により、文化への誇りを感じる住民の割合を高めます。併せて住民が楽しみながら参画できるボランティア養成講座を整備し、既存のボランティア団体や構成市町間での人的な交流や文化の交流を促進させていきます。

3年間の「日本遺産魅力発信推進事業」を基盤として、構成市町及び関連する企業・団体・住民が一体となった自助努力によって自立するために必要な「ヒト(体制・人材)・モノ(文化財・産業)・カネ(収益・財源)」を確立し、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を輝き続ける「日本の財(たから)」へと昇華を果たしながら、自走していきます。

また、その東日本大震災からの完全なる復興を後押しする「日本遺産『みちのくGOLD浪漫』」の姿によって、域内活性化の基礎となっているストーリーの理解の深化を図ります。

(4) 実施体制

【協議会の名称】

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会

【協議会構成団体】

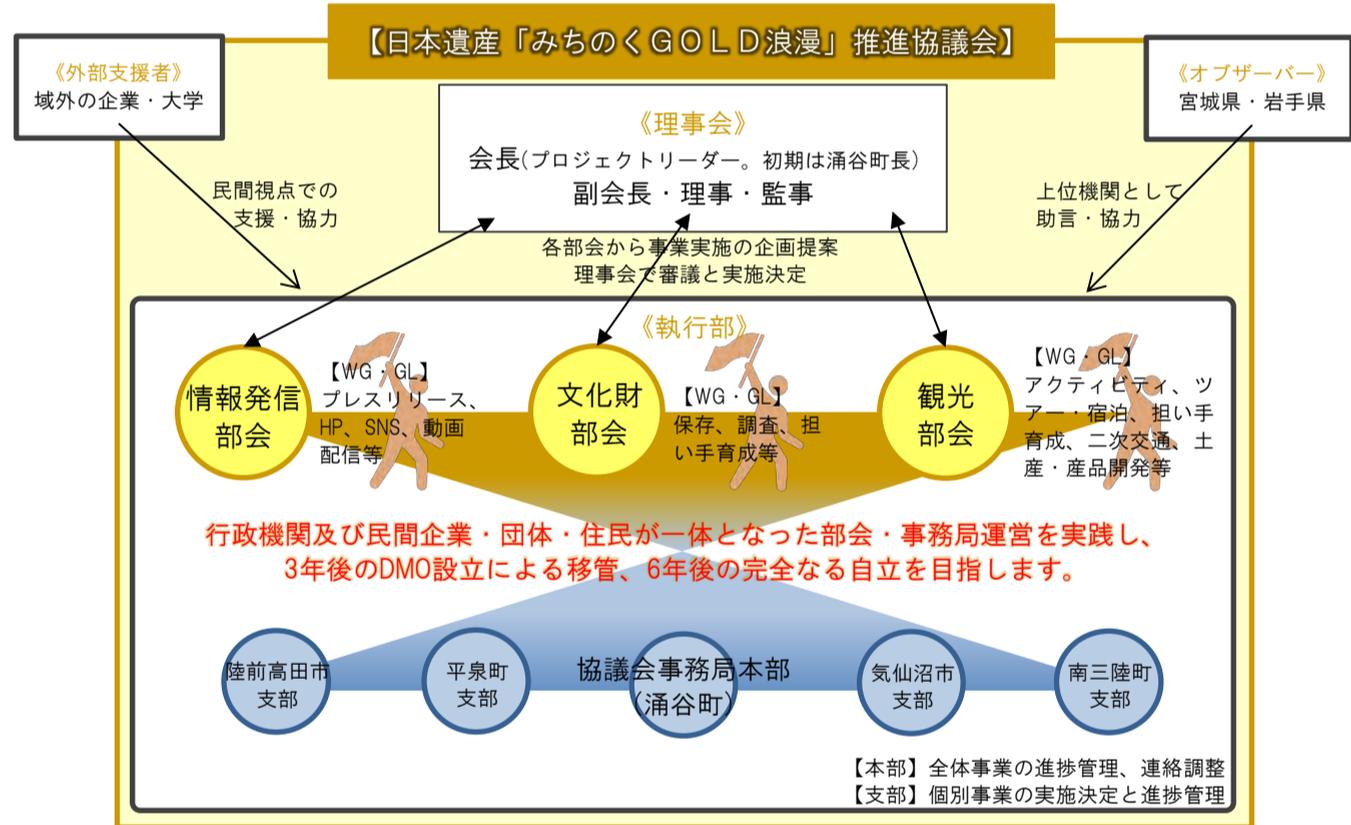
涌谷町(生涯学習課、企画財政課、まちづくり推進課、農林振興課)、気仙沼市(生涯学習課、震災復興・企画課、観光課、商工課、水産課、農林課)、南三陸町(生涯学習課、企画課、商工観光課、農林水産課)、陸前高田市(生涯学習課、企画政策課、商工観光課、水産課、農林課)、平泉町(まちづくり推進課、文化遺産センター、観光商工課、農林振興課)、一般社団法人涌谷町地域振興公社、涌谷町観光物産協会、遠田商工会、気仙沼観光コンベンション協会、気仙沼物産振興協会、気仙沼商工会議所、一般社団法人気仙沼地域戦略、ロッツ株式会社、陸前高田市観光物産協会、陸前高田商工会、平泉観光協会、平泉商工会、一般社団法人世界遺産平泉・一関DMO、南三陸町観光協会

【協議会オブザーバー・外部支援者】

宮城県、岩手県、東北観光推進機構、宮城県観光誘致協議会、宮城県観光連盟、岩手県観光協会、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社、仙台国際空港株式会社、河北新報社、岩手日日新聞社、岩手日報社、株式会社まるく、ariTV株式会社

【体制及び運営概要】

- 初年度の協議会会長(プロジェクトリーダー)は、日本遺産申請自治体代表である涌谷町から選出。任期を2年として3年目以降は、協議会を構成する行政機関以外の民間企業・団体・住民の中から会長ら役員を選出し、自立を図ります。
- 事務局本部も同様に涌谷町に置き、全体事業の意思決定・予算執行は、月次の理事会定例会において、会長及び副会長、理事による審議を経て決裁される流れとします。
- 全体事業の企画立案や進捗管理は、事務局本部が原則行うが、広域連携となることから事務局機能を各市町に置き、個別案件の意思決定・実行を迅速に行える体制とします。
- 協議会内には、産業別・分野別に「部会」を設置し各テーマごとに「ワーキンググループ(WG)」を設置し、各テーマごとに地域プレイヤーとして活躍する人材を「グループリーダー(GL)」として任命し、行政機関及び民間企業・団体・住民が活性化に向けた事業の具体案の企画や自主事業を実行してまいります。
- 協議会外からも、「ワーキンググループ」のテーマに関連する域外の民間企業・団体・大学等に支援・協力を呼びかけ、活性化に努めます。
- 3年間の補助期間を通して行政と民間(企業・団体・住民)の連携を高めていき、事務局機能を「グループリーダー」を中心とした民間メンバーによるDMO化を成し遂げ、6年後の完全なる自立を目指します。



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価:	別紙①のとおり			
期待される効果:	日本遺産認定後の補助期間3年間で今後の基盤となる、「地域の文化に愛着を感じる割合の増加」や市場調査に基づく「求められる『みちのくGOLD浪漫』ツーリズムの形成」、「自立するための組織体制の確立」を目標に事業を展開していくことで、「構成市町への観光客入込数の増加」「構成市町への外国人入込数の増加」、「地域経済の活性化」が伴った、継続的かつ発展的で自立した母体の確立につながり、次代への日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の継承が期待できます。					
(6) 日本遺産魅力発信推進事業	別紙②のとおり					
事業費:	平成31年度:	40,000千円	平成32年度:	20,000千円	平成33年度:	10,000千円
(7) その他事業	別紙③のとおり					

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	構成市町の観光客入込み数
関連事業：	(6) ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱ (7) ⑥⑦⑩⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛
目標値：	平成 29 年 5,852,022 人 ⇒ 平成 36 年 7,022,426 人
設定根拠：	構成市町の平成29年の観光客入込み数に対して、平成36年までに2割増を設定。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	住民の「地域の文化に愛着を感じる」割合の平均
関連事業：	(6) ①②③④⑥ (7) ②④⑩⑫⑬⑭⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟
目標値：	平成 29 年度 22.7 % ⇒ 平成 36 年度 47.7 %
設定根拠：	構成市町の平成29年度までに行った調査の数値に対して、認定後の31年度以降、毎年度5%ずつの増加を設定。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	日本遺産を活用した取組数(協議会による取組を除く)
具体的な指標：	補助金に頼らない民間事業者やボランティア団体、保存会等が実施する日本遺産関連主催事業(イベント含む)
関連事業：	(6) ①⑤⑥⑦⑩ (7) ①⑪⑫⑮⑰
目標値：	平成 31 年度 3 件 ⇒ 平成 36 年度 20 件
設定根拠：	認定後、補助金を受けられる33年度までに、構成市町のボランティア団体や保存会、観光協会、商工会などと連携しながら継続していける日本遺産にかかわる取組を開発。その後、36年度までに1年間に構成市町全体で20件の取組実施を設定。
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数
具体的な指標：	日本遺産関連の商品・サービス等の数
関連事業：	(6) ④⑤⑦⑧⑨⑩⑭⑯⑰⑱ (7) ②③⑤⑧⑨⑯
目標値：	平成 31 年度 5 件 ⇒ 平成 36 年度 50 件
設定根拠：	認定後、補助金を受けられる33年度までに、構成市町のボランティア団体や保存会、観光協会、商工会などと連携しながら継続していける日本遺産にかかわる取組を開発。その後、1年間に構成市町全体で1件ずつ商品・サービスを開発し合計30件の商材開発を設定。
設定目標Ⅳ：	その他
計画評価指標：	その他
具体的な指標：	
関連事業：	
目標値：	平成 年度 ⇒ 平成 年度
設定根拠：	

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

様式4 (別紙②)

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	【概要①：シビックプライドを醸成させる取り組み】 「みちのくGOLD」の金メダル贈呈事業		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業費:	平成31年度: 2,000千円	平成32年度: 千円	平成33年度:
事業概要:	<p>現在でも「金」が採れる「みちのく」だからこそできる事業として、域内の住民だけではなく域外の人々を巻き込み、日本の財政・文化を支えてきた「みちのくGOLD」を改めて採集します。</p> <p>栄華の象徴としての「中尊寺金色堂」のように、「みちのくGOLD」を使った「金メダル」を制作し、宮城県・岩手県にゆかりのある国際的に活躍するアスリートや文化人に対して、さらなる飛躍への期待を込めて贈呈し、「日本遺産『みちのくGOLD浪漫』大使」に任命します。</p> <p>このことによって、住民が古代の民のように汗をかきながら自ら集めた「みちのくGOLD」が、アスリート・文化人の活躍を後押しする一翼を担うという体験によって、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」へのシビックプライドを醸成するとともに、「みちのく」=「日本の金山」としての地位固めにを図ります。</p> <p>平成32年度以降は、スポンサーを募集し持続的に実施します。</p>		
具体的な指標:	日本遺産の認知度		
目標値:	平成 30 年度 - % ⇒ 平成 36 年度 50 %		
事業②:	【概要①：シビックプライドを醸成させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」公式コンセプトブックの制作		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業費:	平成31年度: 4,000千円	平成32年度: 千円	平成33年度:
事業概要:	<p>構成市町内の子どもたちが、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を誇りに感じる持続的な地域づくりのため、その基礎となる知識を持たせることを目的に、構成市町が有する「みちのくGOLD浪漫」にかかわる歴史・文化・伝統を学べるコンセプトブックを作成します。</p> <p>また、コンセプトブックを地元出身の漫画家に協力を得てグラフィックを描いてもらうことによって、その後の自主財源となり得るよう作成します。</p>		
具体的な指標:	日本遺産の認知度		
目標値:	平成 30 年度 - % ⇒ 平成 36 年度 50 %		
事業③:	【概要①：シビックプライドを醸成させる取り組み】 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」次世代育成プログラム開発・支援事業の実施		
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
事業費:	平成31年度: 500千円	平成32年度: 500千円	平成33年度:
事業概要:	<p>日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を次世代に継承するため、「入門プログラム」を作成（ワークショップ形式で、分かりやすく学校でも利用しやすいような内容）し、域内の小・中・高校の児童生徒を対象に、学校出前授業をローリング開講し、学習を通じて理解を深めさせ、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を誇りに感じる持続的な地域づくり事業を実施します。</p> <p>併せて授業での活用を促進するため、教員向けのプログラム活用研修会を開催する（副読本の活用策としても有効）。平成33年度以降の授業支援や研修会は、各構成市町において教育委員会と小中学校が連携し自主的に継続実施します。</p>		
具体的な指標:	日本遺産の認知度		
目標値:	平成 30 年度 - % ⇒ 平成 36 年度 50 %		

事業④：	【概要①：シビックプライドを醸成させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」にまつわる教育旅行プログラムの整備		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 1,000千円	平成33年度：
事業概要：	<p>構成市町内はもとより宮城県・岩手県域全体の子どもたちが、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を誇りに感じる持続的な地域づくりのため、単なる座学ではなく、構成市町の関連施設・文化財を訪れ、五感で感じながら学び理解を深められる小学生向け教育旅行プログラムを整備します。</p> <p>整備にあたっては、平成31年度に子どもたち目線での調査を実施し、平成32年度には調査に基づいたファミトリップを実行し、教育旅行プログラムの確立につなげる。平成33年以降は必要に応じてプログラムの点検・見直しを図りながら、学校等教育機関や関係する民間事業者にプログラムの活用を働きかけます。</p> <p>また、民間だけではなく、構成市町の友好都市に対して「みちのくGOLD浪漫」教育旅行プログラムを紹介し、交流滞在事業としての活用を促します。</p>		
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数		
目標値：	平成 30 年度	0 件	⇒ 平成 36 年度 25 件
事業⑤：	【概要①：シビックプライドを醸成させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」構成文化財等詳細調査事業		
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 千円	平成33年度：
事業概要：	<p>日本遺産「みちのくGOLD浪漫」にかかわる域内に存在する文化財及びそれに関連する資産、特に未指定の文化財について悉皆調査を実施し、各種誘客プロモーションの素材への有効活用や対象文化財を活用した旅行商品の開発を行うなど、保存だけにとどまらない次代への継承へとつなげてまいります。</p> <p>調査については、平成32年度以降はふるさと納税や寄付金などを財源としての活用を検討しながら継続的・発展的な調査を実施し「日本の産金」を代表する地域として総合的な魅力の深化・磨き上げを図ります。</p>		
具体的な指標：	その他(調査対象文化財を活用した商品開発数)		
目標値：	平成 30 年度	0 件	⇒ 平成 36 年度 5 件
事業⑥：	【概要①：シビックプライドを醸成させる取り組み】 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」シンポジウムの開催		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度： 2,500千円	平成32年度： 千円	平成33年度：
事業概要：	<p>域内の住民が日本遺産「みちのくGOLD浪漫」について認知するとともに、持続的に誇りを育み続ける地域となるよう、その機運醸成を目的に、構成市町が有する「みちのくGOLD」の歴史・文化・伝統にかかわるシンポジウムを開催します。</p> <p>シンポジウムの開催にあたっては、一部の有識者や歴史文化に関心のある住民だけでなく、一般住民が楽しみながら参加し体感しながら理解を深められるプログラムとして実施します。一例として、鹿折金山が産出したモンスターゴールドの里帰り展の併催や産金地における砂金採り体験、金細工加工体験など。</p> <p>平成32年以降に予定するアート展やテレビ番組制作事業など、域内外を含めた認知活動へと移行する足がかりとします。</p>		
具体的な指標：	日本遺産の認知度		
目標値：	平成 30 年度	- %	⇒ 平成 36 年度 50 %

事業⑦：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」にかかわるアート展の開催		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 5,000千円	平成33年度：
事業概要：	<p>ターゲットとして考えるアジア圏の外国人観光客や首都圏のアクティブシニアを中心とした域外の観光客に加えて、域内の住民が日本遺産「みちのくGOLD浪漫」について認識するとともに、持続的に誇りを育み続ける地域となるよう、「みちのくGOLD浪漫」ゆかりの地に、改めて足を運びたい企画として、芸術系大学・企業とのコラボレーション・協賛による産金地・金山跡地などを会場として「金」をテーマとした「みちのくGOLD浪漫」アート展(仮称)を実施します。</p> <p>特に、アジア圏の外国人観光客に向けて、「COOL JAPAN」要素を掛け合わせるなど、「みちのくGOLD浪漫」への関心を向けさせる機会として位置付けます。</p> <p>平成32年度を事業初年度とし、その後は実績をもとにスポンサー募集やクラウドファンディングによる支援を募りながら、2年毎など数年おきに継続して実施します。</p>		
具体的な指標：	外国人入込み数		
目標値：	平成 29 年度 52,448 人 ⇒ 平成 36 年度 80,000 人		
事業⑧：	【概要②：ツーリズムを確立する取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる市場調査		
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度： 2,000千円	平成32年度： 千円	平成33年度：
事業概要：	<p>継続的かつ発展的で自立できる「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムを確立するために、東アジア圏及びアメリカ・欧州の外国人観光客や首都圏のアクティブシニアをターゲットの基礎としながら、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」に対する市場(どのような層が、何に関心があるのか、何を求めているのか等)について調査を実施します。</p> <p>その後のツアー・宿泊プラン、民泊施設開業の促進、着地型観光アクティビティ(砂金採り体験・鉱山跡地探索・鉱石採取体験・金加工体験など)、土産、食事、農産物などの商品開発へと反映させていきます。</p> <p>また、本事業については経年による状況や動向の変化に対応するため、数年おきの点検等を検討します。</p>		
具体的な指標：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数		
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 20 件		
事業⑨：	【概要③：アクティビティ・ギフトを創出する取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる産業界の人材育成		
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 1,000千円	平成33年度： 1,000千円
事業概要：	<p>持続的かつ発展的で自立できる「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムを確立するためには、担い手の存在が必要不可欠です。</p> <p>各種産業界において、日本遺産にかかわる起業家創出・担い手育成につなげるためのセミナーを実施しつつ、「金資源」×「既存の地域資源(自然や農水産品、工芸品など)」による「みちのくGOLD浪漫ブランド商品(着地型観光アクティビティやお土産品など)」の開発を行います。</p> <p>32年度は初級セミナー、33年度は上級セミナーとして段階的に実施します。</p> <p>本事業は自主事業で予定する受け入れ体制強化事業、地域取組体制構築事業と連携する事業として展開し、平成33年度以降はそれらの事業で得られたノウハウを活用し、講座受講者による開講など、自主運営として継続を図ります。</p>		
具体的な指標：	その他(日本遺産に関連する事業(各種産業)を展開する事業者数)		
目標値：	平成 30 年度 0 社 ⇒ 平成 36 年度 12 社		

事業⑩：	【概要③：アクティビティ・ギフトを創出する取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわるガイド人材育成		
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 1,000千円	平成33年度： 1,000千円
事業概要：	<p>「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる歴史・文化・伝統を分かり易く、かつ、楽しく紹介できるガイドを育成。特に、案内対象の主軸となるアジア圏の外国人観光客や首都圏のアクティブシニアの要望や文化を理解・把握し、対象者の満足度を引き出す受入れを実施できるガイドの育成を目指します。</p> <p>32年度は初級セミナー、33年度は上級セミナーとして段階的に実施します。</p> <p>各地の保存会による自主運営事業だけではなく、旅行会社などの民間事業者主催の旅行商品に派遣するなど、持続可能なガイド事業の確立を図ります。</p> <p>平成33年度以降は自主事業としてセミナーを開催し、継続的な人材育成を行います。</p>		
具体的な指標：	コーディネーター等育成講座修了者による活動件数		
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 50 件		
事業⑪：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる多言語対応情報発信ホームページの整備		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 年度 ~ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 4,000千円	平成32年度： 4,000千円	平成33年度： 3,000千円
事業概要：	<p>平成31年度は、ストーリーに基づいた歴史や文化、行きたいと思わせるモデルコースを紹介する日本国内のターゲット層に向けたホームページを構築します。</p> <p>平成32年度には、平成31年度に実施する市場調査に基づいた地域・言語を選定し、そのターゲット層に刺さる情緒的な写真やデザインを使用した外国語のホームページを構築します。</p> <p>なお、構築にあたっては、ホームページを必要に応じて更新・進化させられるようCMSを搭載。適宜合わせて、多言語対応のSNSを連携させ、各地の今を発信し、誘客を図ります。</p> <p>また、平成33年度には、外部の予約・決済サイトとAPI連携し、予約成立に伴う手数料が支払われる仕組みを導入し、事業運営の自主財源とすることを目指します。</p>		
具体的な指標：	その他(観光客入込数)		
目標値：	平成 29 年度 5,852,022 人 ⇒ 平成 36 年度 7,022,426 人		
事業⑫：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる多言語対応動画コンテンツの整備		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 2,000千円	平成33年度：
事業概要：	<p>ターゲット層として位置付けるアジア圏の外国人観光客や、その後の市場調査の結果に基づき、「金」に関心の高い外国人観光客を対象として、動画を見た対象者に「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムをたどってみたいと思わせることを目的とした「みちのくGOLD浪漫」のストーリーにまつわる歴史や伝統、文化、観光を紹介する動画コンテンツを整備します。</p> <p>制作したコンテンツは、平成31年度に設置するホームページ等の媒体で活用します。</p>		
具体的な指標：	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)		
目標値：	平成 30 年度 - 回再生 ⇒ 平成 36 年度 50,000,000 回再生		

事業⑬：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムのビジターセンター・サテライトセンターの整備		
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 15,000千円	平成32年度： 千円	平成33年度：
事業概要：	<p>観光客が域内の構成文化財や施設、観光地へと円滑に移動できるよう、宮城県涌谷町(東北のゲートウェイ仙台市最寄り)と岩手県平泉町(新幹線の駅を有する一関市最寄り)をゲートウェイ地として、「みちのくGOLD浪漫」ビジターセンターを整備。センター内にはガイドを配備するほか、多言語対応した案内板やガイドアプリのダウンロード等の周遊促進の拠点とします。</p> <p>また、中継地としての岩手県陸前高田市・宮城県気仙沼市・南三陸町にサテライトセンターとして、同じく案内板やガイドアプリのダウンロード等が行える拠点を設け、各地における周遊の促進と円滑化を図ります。</p> <p>なお、各センターは、「みちのくGOLD浪漫ツーリズム」のデザインフォーマットで揃え、世界観を統一させます。</p>		
具体的な指標：	施設(ビジターセンター・サテライトセンター)への入込数		
目標値：	平成 30 年度 - 人 ⇒ 平成 36 年度 2,000,000 人		
事業⑭：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムへの海外の旅行会社・観光関係者に向けたセールスツールの制作		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 千円	平成33年度：
事業概要：	<p>個人の外国人観光客だけではなく、旅行会社を通じて訪日する外国人観光客をとり定めるよう、「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムをアジア圏を中心とした旅行会社・観光関係者に売り込むための多言語対応したセールスパンフレットを作成します。</p> <p>パンフレットの制作にあたっては、「みちのく」＝「日本の金山」であること示すため、デザイン・印刷に「金」を用いるなど、「みちのくGOLD」の浪漫を感じられる仕上げとします。</p> <p>平成32年以降の改訂・増刷については、広告募集など財源確保を図りながら実施します。</p>		
具体的な指標：	外国人入込み数		
目標値：	平成 29 年度 52,448 人 ⇒ 平成 36 年度 80,000 人		
事業⑮：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムのセールスプロモーションツールの制作		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 千円	平成33年度：
事業概要：	<p>連携する仙台空港やターミナル駅、ツーリストインフォメーションセンター等の旅に関心の高いターゲット層に対して「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムについて周知するよう、パンフレット及びポスターを制作し、設置します。</p> <p>また、国内での展示会やイベント出展や域内の各スポットのアイキャッチ用ののぼりを制作します。</p> <p>各種プロモーションツールの制作にあたっては、「みちのく」＝「日本の金山」であること示すため、デザイン・印刷に「金」を用いるなど、「みちのくGOLD」の浪漫を感じられる仕上げとします。</p> <p>多言語版もターゲット地域の趣向に併せたデザイン・内容で制作します。</p> <p>平成32年以降の改定・増刷については、広告募集など財源確保を図りながら実施します。</p>		
具体的な指標：	その他(観光客入込数)		
目標値：	平成 29 年度 5,852,022 人 ⇒ 平成 36 年度 7,022,426 人		

事業⑯：	【概要④：情報発信と周遊を促進させる取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズム内の周遊を促進させるアプリケーションの開発			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 4,000千円	平成33年度：	
事業概要：	<p>観光客が域内の構成文化財や施設、観光地を効率的に周遊し、満足してもらえるよう、「みちのくGOLD浪漫」ツーリズム共通の多言語対応アプリケーションを開発。例えば、通常の周遊ナビゲーション機能のほか、遺跡・遺構内において、空間認識機能とAR技術を組み合わせ、多国籍に通用する「COOL JAPAN」要素のあるキャラクターがガイドするアプリとして、お金を出してでも使いたいアプリを開発します。</p> <p>アプリの販売による自主財源の確保に加えて、将来的に(平成33年度以降)、外部サイトとのAPI連携による予約決済の仕組みを導入し、利便性の向上を図りながら、さらなるアプリの販売による手数料収入を元手とした自主財源の確保を図ります。</p>			
具体的な指標：	観光客の満足度			
目標値：	平成 30 年度	-	%	⇒ 平成 36 年度 75 %
事業⑰：	【概要②：ツーリズムを確立する取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムのファミトリップ			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 1,500千円	平成33年度：	2,000千円
事業概要：	<p>「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる各種案内板、印刷物、ホームページを整備した上で、市場調査に基づいた国内外の想定ターゲット層や旅行エージェントを対象として企画したファミトリップを実施。単に旅行してもらうのではなく、地元関係者との意見交換会を開催し、観光客受け入れに向けた課題抽出や旅行商品の開発につなげます。</p> <p>実施は、32年度に日本人向け旅行商品開発用として、33年度は外国人向け旅行商品開発用として実施します。</p> <p>併せて、整備した各種ツール類の効果を検証しつつ、ツアー内容の満足度を検証し、実際の旅行商品(ツアー旅行・宿泊プラン)へとフィードバックします。</p>			
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数			
目標値：	平成 30 年度	-	件	⇒ 平成 36 年度 25 件
事業⑱：	【概要②：ツーリズムを確立する取り組み】 「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムの海外プロモーション			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 33 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 千円	平成32年度： 千円	平成33年度：	3,000千円
事業概要：	<p>市場調査に基づいた「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわる多言語対応のホームページやアプリケーション、動画コンテンツの整備や、海外ターゲット層を対象として企画したファミトリップを実施した後、仕上げとして、東アジア圏を含む「みちのくGOLD浪漫」が最も親和性の高いターゲット地で誘客につなげることを目的とした海外プロモーションを敢行し、「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムへの誘客を図ります。</p> <p>平成34年以降は、同事業を展開する関係諸機関とタイアップするなど、継続的に情報を海外へと波及させる取り組みを展開します。</p>			
具体的な指標：	外国人入込み数			
目標値：	平成 29 年度	52,448 人	⇒	平成 36 年度 80,000 人

(7) その他事業

事業①：	「JAPAN GOLD サミット」の発足		
実施主体：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	世界に「黄金の国・ジパング」として知られてきた我が国の誇りである「日本の金」。「日本遺産みちのくGOLD浪漫推進協議会」を中心に甲斐黄金村や佐渡金山など、金の採掘に貢献してきた名だたる遺跡群や金沢の金箔工芸のように金の魅力を引き出す技術を培ってきた地など、縁の地が連携し、「黄金の国・ジパング」について考えていく足がかりを作ります。 将来的には、日本に産金の技術をもたらした百済王敬福の縁の地(大韓民国忠清南道扶餘郡)や、世界の金産出国「中国」「オーストラリア」「ロシア」「アメリカ」「カナダ」等との国際的な文化交流ネットワークの構築も図ります。		
事業②：	大手企業とのコラボレーションによる「みちのくGOLD浪漫」の磨き上げ		
実施主体：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	「みちのくGOLD」または「金資源」に縁の深い大手企業と連携し、各構成市町が有する「みちのくGOLD浪漫」にかかわる地域資源からの商品化・商品のブラッシュアップを図ります。その際、地元高校生など、地域の次代を担う若者を参加させ、誇りの醸成を図ります。		
事業③：	「みちのくGOLD浪漫」ブランド認証制度の制定		
実施主体：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	涌谷町が平成29年度から実施している地域ブランド米創出事業「金のいぶき」のように、構成市町各地で農水産の生鮮品・加工品や、観光業における着地型観光アクティビティや土産物等について「みちのくGOLD浪漫」ブランドの認証制度を、観光客の満足度を高めるとともに、地域経済の活性化と品質の維持を図るために導入します。 また、ブランド認定商品は、ホームページやアプリ、パンフレット、イベント等で、優先的にPR・販売される権利を提供し、ブランドの活性化を同時に図ります。		
事業④：	「みちのくGOLD」採集と各種象徴への原材料提供プロジェクト		
実施主体：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	「みちのく」＝「日本の金山」という地位確立のため、構成市町各地の金山において、安全と保存に配慮しながら自主的に、砂金・金鉱石の採掘を実施し、日本国内はもとより世界的なスポーツ競技大会の「金メダル」に使用する原材料の一部として「みちのくGOLD」を採用してもらえよう、働きかけを行います。		
事業⑤：	地域おこし協力隊による観光受け入れ態勢の強化事業		
実施主体：	構成市町	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムの受け入れ態勢の強化として、高齢化が進む構成市町において、地域おこし協力隊を観光ガイドやビジターセンタースタッフとして任用し、若い力による地域資源の磨き上げを実践しながら、移住定住の促進と起業家創出へと結びつけます。		
事業⑥：	インバウンド対応に向けた地域取組体制構築事業		
実施主体：	構成市町	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	観光庁の東北観光復興対策交付金を活用し、構成市町内の地元住民や民間団体、中小企業(小売店・宿泊施設・飲食店等)事業者と連携した滞在コンテンツの充実と強化を図りつつ、外国人旅行者に追って分かり易く、地域の面的ストーリーを伝える文化財の多言語解説文の整備や受け入れ側の事業者を対象とした英会話講座やPOP創作講座、ガイド養成講座等を実施します。		
事業⑦：	通信環境整備事業		
実施主体：	宮城県・岩手県	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	「みちのくGOLD浪漫」が誇る構成文化財・史跡の重要地区について、携帯の通信環境及びWiFi通信の環境整備を行い、特にインバウンド向けの利便性の向上を図り、満足度を高めていきます。		

事業⑧：	大学等との連携による雇用創出・若者定着にかかわる事業		
実施主体：	構成市町	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>「観光」や「建築」等の専攻を有する地元大学と協定を締結し、学生たちが持つ若者ならではの発想に基づいた切り口から「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムの構築・磨き上げを行います。</p> <p>例として、学生目線での着地型観光プランの立案や空き家・古民家等を活用した民泊施設の開設等を図りつつ、大学のサテライトキャンパスの整備や若者の雇用創出や定着につなげていきます。</p>		
事業⑨：	域内における民泊の普及事業		
実施主体：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>宿泊需要に対応できる民泊施設の整備を促進するため、施設整備にかかわる資金調達・運営等のセミナー・勉強会を実施します。</p>		
事業⑩：	「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムにかかわるテレビ番組制作		
実施主体：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムを幅広く紹介するために、「金」の歴史をテーマとした番組を在京キー局とタイアップし制作。観光名所、宿、食事など幅広く紹介する観光番組としても成立させ、観光客入込数の増加を狙います。クラウドファンディングや広告スポンサーを募り、財源とします。</p>		
事業⑪：	域内の金に関連する文化資産の悉皆調査		
実施主体：	構成市町	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	<p>歴史文化基本構想事業等に組み込み、構成市町域内に存する「金に関連する資産」を悉皆調査し、保存活用の方針に位置付けする。</p>		
事業⑫：	現代の「みちのくGOLD」による文化財の保存・修復プロジェクト		
実施主体：	構成市町	事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	<p>日本遺産認定後、構成市町各地の金山において、安全と保存に配慮しながら自主的に、砂金・金鉱石の採掘を実施し、日本遺産はもとより世界遺産である「中尊寺金色堂」をはじめとした文化財の保存・修復に使用する原材料の一部として「みちのくGOLD」の使用を働きかけます。</p>		
事業⑬：	電動バイク（バイクル）レンタル事業		
実施主体：	陸前高田市観光物産協会	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>公共交通機関と連携した観光地の2次・3次交通の低炭素化促進事業として、電動バイクのレンタル事業を開始します。併せてガイド付きのツアーも検討しており、構成文化財を巡るツアー等の開催も考えられます。</p>		
事業⑭：	カーシェアリングエコノミー推進事業		
実施主体：	気仙沼市	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>総務省「シェアリングエコノミー活用推進事業」のモデル事業として、民間リース会社と提携し、休日の公用車の活用促進を図るため、観光客等にレンタルする事業を展開中です。市内観光地や構成文化財巡りに活用することが期待できます。</p>		
事業⑮：	観光レンタサイクル事業		
実施主体：	気仙沼観光コンベンション協会	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>公共交通機関と連携した観光地の2次交通を促進するため、レンタサイクルや電動アシスト付きレンタサイクル貸出事業。市内の構成文化財巡りに活用することが期待できます。</p>		
事業⑯：	平泉町巡回バス「るんるん」事業		
実施主体：	岩手県交通株式会社	事業期間：	平成 15 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	<p>世界遺産を有する平泉町内において二次交通の主力として「平泉駅前」～「毛越寺」～「中尊寺」～「道の駅平泉」～「平泉駅前」を周遊するバス。世界遺産平泉の観光客の足を支える二次交通として黒字運行。</p>		

事業⑰：	いつもと違う目線で観光地を巡れる公道用ゴーカートレンタル事業		
実施主体：	ゴールドレンタ平泉	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	花巻市との地方創生連携事業によって、二次交通アクティビティ(楽しめる二次交通)として設けた普通免許で走れるカートのレンタル事業。		
事業⑱：	わくや天平レンタサイクル事業		
実施主体：	一般社団法人涌谷町地域振興公社	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	涌谷町の観光客の玄関口・JR涌谷駅と黄金山産金遺跡をつなぐとともに、涌谷町内の観光施設や飲食店、土産物店を周遊できるよう、レンタサイクルによる小回りの利く二次交通を整備。		
事業⑲：	インバウンド対策による交流人口拡大事業		
実施主体：	陸前高田市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	パンフレット、ホームページ、看板等の多言語化、認定通訳ガイド養成、指さしボードなどのコンテンツ開発等、様々な方向から外国人観光客受け入れ態勢の充実を図っています。外国人観光客を重要なターゲットとする「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムについても、インバウンド関連事業の一つとして注力していきます。		
事業⑳：	道の駅「高田松原」管理事業		
実施主体：	陸前高田市	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	道の駅「高田松原」は、奇跡の一本松等とともに復興祈念公園内に整備される(平成31年度中オープン)ことから、市内における重要な集客スポットとなります。その場で、「みちのくGOLD浪漫」関連商品の販売等のPR活動により、「みちのくGOLD浪漫」ツーリズムの確立に貢献します。		
事業㉑：	涌谷町産ブランド米「金のいぶき」の東大寺大仏殿への献納		
実施主体：	涌谷町	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	日本初の産金地である歴史と、稲作を中心とした農業を基幹産業とする涌谷町が、平成29年度からブランド化を推進する玄米食専用米「金のいぶき」について、涌谷町の現代の金として日本初の産金から約1300年の時を経て奈良東大寺大仏殿にある盧舎那仏に、毎年11月3日に実施される聖武天皇・光明皇后の供養を目的とした平城京天平祭東大寺参詣に併せて献納し、産金地としての地域に対する誇りの醸成と関西地方への産金の歴史の発信を行います。		
事業㉒：	鹿折金山祭り		
実施主体：	鹿折金山資料館運営委員会	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	世界最大の自然金「モンスターゴールド」を産出した鹿折金山で、金山労働者の鎮魂と金山の新たな発展を祈念するイベントを開催します。山の神社の神事に続き、神社に奉納した郷土芸能の打ちばやし、砂金採り体験、源氏の滝登り、ガイド付き金山ツアーなど、鹿折金山に親しみ、「みちのくGOLD浪漫」の認知度向上と地域の誇りを醸成することを目指します。		
事業㉓：	気仙沼みなとまつり		
実施主体：	みなとまつり委員会(気仙沼市ほか)	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	毎年8月に気仙沼港で開催される「みなとまつり」。日本遺産の構成文化財であり、気仙沼の風物詩でもある祭ばやし「打ちばやし」大競演や、「大漁唄込」が港町で演じられます。「みちのくGOLD浪漫」の魅力向上と地域の誇りの醸成を図ります。		
事業㉔：	地域魅力再発見事業「けせんぬま学講座」		
実施主体：	気仙沼市文化遺産活用検討実行委員会、気仙沼市教育委員会	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	文化庁「文化遺産総合活用推進事業」を活用し、専門家や地域コーディネータなどを講師に、鹿折金山や日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の構成文化財をテーマにした地元学講座を開催します。		
事業㉕：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」市民公開講座		
実施主体：	構成市町	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の普及啓発、地域の担い手育成を図るため、日本遺産の内容を分かりやすく知って学ぶための市民講座とフィールドワークを開催します。テーマや講師、開催回数などは構成市町ごとに企画。		

事業26:	「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」等の観光ガイド等へのプレスリリースの取組		
実施主体:	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	国内やインバウンドの誘客を促進するため、多彩で魅力ある「みちのくGOLD浪漫」の自然や歴史文化を、ミシュランの旅行ガイド「グリーンガイド・ジャポン」など国内外の知名度のある観光ガイド・エージェントや全国メディア向けにプレスリリースを配信するとともに、紹介・掲載に向けた「みちのくGOLD浪漫」のファムトリップを実施します。掲載されたあかつきには、エリアへの一層の誘客の促進が期待されます。		
事業27:	全国近代化遺産一斉公開連携事業		
実施主体:	気仙沼市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	日本の近代化に貢献し、地域の歴史や生業と深くかかわった鹿折金山と大谷鉱山PR事業。10月20日「近代化遺産の日」を中心に実施される「全国近代化遺産一斉公開」（全国近代化遺産活用協議会と連携）を開催し、「みちのくGOLD」の認知度向上と地域の誇りの醸成を図る。		
事業28:	風待ちヘリテージウォーク		
実施主体:	(一社)気仙沼風待ち復興検討会、気仙沼観光コンベンション協会	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	日本遺産の構成文化財「気仙沼港と風待ちの風景」を体感できる、まち歩きツアー「ヘリテージウォーク」を開催しています。観光客の滞留性や回遊性を確保し、観光地としての面的な展開が期待されます。		
事業29:	鹿折金山・大谷鉱山「みちのくGOLD」クリーンアップ事業		
実施主体:	気仙沼市、地元企業、地域団体等	事業期間:	平成 32 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	みやぎ環境交付金を活用し、鹿折金山と大谷鉱山周辺の森林環境や遺構保全を図るため、市民参加や地元企業のCSR活動と連携したクリーンアップ作戦を開催し、「みちのくGOLD」の認知度向上と地域の誇りの醸成を図る。		
事業30:	「みちのくGOLD浪漫」周知キャラバンツアー		
実施主体:	構成市町	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の認定を目指している構成市町が、それぞれの地域で開催されるイベントを巡回しブースを出店しています。砂金採り体験やパネル展をとおして「みちのくGOLD浪漫」の認知向上と誇りの醸成を図ります。		
事業31:	「みちのくGOLD浪漫」インスタグラム・コンテスト		
実施主体:	日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会	事業期間:	平成 32 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	「みちのくGOLD浪漫」ご当地自慢となる構成市町の写真をInstagramにアップするコンテストイベントを開催します。最優勝賞作品は、仙台空港等のサイネージで紹介し、みちのくGOLD浪漫のPRを行い、知名度アップを狙います。		
事業32:	学校給食を通じた日本遺産「みちのくGOLD浪漫」啓発事業		
実施主体:	涌谷町	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	構成市町内の小中学校で提供される学校給食において、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」に縁のある食材をとおして、歴史文化を子どもたちへ伝え、産金地としての地域に対する誇りの醸成を図ります。		
事業33:	元気わくやふれあい町づくり事業(放課後子ども教室)における日本遺産「みちのくGOLD浪漫」にかかわる普及啓発事業		
実施主体:	涌谷町	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	学校と地域で子どもたちの学びを支えている元気わくやふれあい町づくり事業(放課後子ども教室)で、スタッフであるコーディネーター、ボランティアから日本遺産「みちのくGOLD浪漫」を子どもたちへ教え、次世代の若者たちが地域に誇りを持ち、活気ある町づくりへの参画を促進します。		
事業34:	黄金咲くみちのく山の砂金採りと黄金光る蛍まつり		
実施主体:	涌谷町	事業期間:	平成 32 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	日本初の産金地・黄金山神社境内周辺において、「みちのくGOLD」の採集とその地に舞い黄金の光を放つホタルを鑑賞するイベントを実施し、産金地としての地域に対する誇りの醸成を図ります。		